

四門会

第 26 号



聖マリアンナ医科大学

耳鼻咽喉科学教室同門会

目次

| | | |
|-------------------------------|---------|----|
| 巻頭言 | 肥塚 泉 | 4 |
| 会長あいさつ | 岩武博也 | 5 |
| 医局長あいさつ | 三上公志 | 6 |
| 新入医局員あいさつ | 赤羽邦彬 | 7 |
| | 久保佑介 | 9 |
| | 藤井正文 | 10 |
| | 堀江怜央 | 11 |
| | 森田 翔 | 12 |
| 退局のご挨拶 | 阿久津征利 | 13 |
| 国内留学を終えて | 深澤雅彦 | 14 |
| 第 80 回 耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会を主催して | 宮本康裕 | 15 |
| 平成 28 年度耳鼻咽喉科臨床学会 学会賞を受賞して | 梅原 毅 | 18 |
| 四門会賞を受賞して | 釧持 睦 | 19 |
| 四門会賞を受賞して | 佐藤成樹 | 20 |
| 大学院生便り | 荒井光太郎 | 21 |
| | 四戸達也 | 22 |
| | 西本寛志 | 23 |
| | 望月文博 | 24 |
| 医局報告 | 医局構成 | 25 |
| | 関連病院連絡表 | 26 |
| 専門外来紹介 | | |
| めまい外来 | 鈴木 香 | 27 |
| 頭頸部腫瘍外来 | 明石愛美 | 28 |

| | | |
|-------------------|-------|----|
| 喉頭・音声・嚥下外来 | 赤澤吉弘 | 29 |
| 副鼻腔・アレルギー外来 | 多村悠紀 | 30 |
| 聴覚外来 | 谷口雄一郎 | 31 |
| 関連病院だより | | |
| 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 | 岡田智幸 | 32 |
| 川崎市立多摩病院 | 晝間 清 | 34 |
| 横浜医療センター | 佐々木祐幸 | 35 |
| 横浜総合病院 | 田中泰彦 | 36 |
| 東京労災病院 | 川島孝介 | 37 |
| 癌研有明病院 | 新橋 涉 | 38 |
| OB通信 | 大越俊和 | 39 |
| | 越智健太郎 | 40 |
| | 佐久間惇 | 42 |
| | 荻野貞雄 | 44 |
| | 釧持 睦 | 46 |
| | 黒田寿史 | 48 |
| 第19回四門会ゴルフコンペ | 桑原大輔 | 50 |
| 第22回四門会理事会議事録 | | 52 |
| 第22回四門会 写真 | | 54 |
| 会則および編集後記 | | 56 |

巻頭言 耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会の開催、5人の新人たち

肥塚 泉

早いもので、もう巻頭言を書く時期となった。今年2018年はと来年2019年は特別な年となった。来年の5月から元号が変わるのである。私が生まれた「昭和」という時代が、本当に遠くになってしまうと思うと、ある種のノスタルジアを感じざるを得ない。今年には医局に取って大きなイベントがあった。第80回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会（テーマは「To the bright future」）の開催である。6月29日～30日に、会場はパシフィコ横浜会議センターで開催させていただいた。我々の教室における本学会の主催は2回目である。1回目は竹山 勇先生が平成5年7月8日～9日に、今回と同じく、パシフィコ横浜会議センター



で開催しておられる。四半世紀ぶりの本学会開催となった。特別講演は、作家でもあり医師でもある海堂 尊氏にお願いした。海外招聘講演は、バラニー学会のSecretaryでもある、スウェーデン・ルンド大学耳鼻咽喉科教授のMåns Magnusson先生にお願いした。シンポジウムでは「メニエール病の最前線」と題して、メニエール病に関する最新の知見について各分野のエキスパートに発表していただいた。パネルディスカッションは「耳鼻咽喉科診療 up to date」と「女性医師のキャリアプランの立て方・キャリア形成の考え方—女性医師が活躍するためには—」の2つを行った。前者では、耳科領域、鼻科領域、口腔・咽頭領域、頭頸部領域の最新手技や最新器具に関する情報を、各パネリストの先生方に発表していただいた。後者では、医育機関、基幹病院、地域医療に第一線で携わっておられる女性医師に、それぞれの立場から、“キャリアプランの形成”をキーワードとした発表を行っていただいた。おかげさまで、参加された多くの先生方から、「面白かった」、「ためになった」というお褒めの言葉をいただくことができた。そして今回は、本学会では初となる、各専門分野のエキスパートによる、“ハンズオンセミナー”を、2つ開催させていただいた。テーマは「経口的咽喉頭手術の基本手技」と「見て触ろう 最新平衡機能検査」の2つであった。初の試みではあったが、いずれのセミナーにも、若手の先生方を中心に、多くの先生方が参加していただき、満員御礼となった。来年度の本学会でも“ハンズオンセミナー”が開催されるとお聞きしている。今回に続き、盛会になることをお祈りしている。

さて、本年度は、赤羽邦彬君、久保佑介君、藤井正文君、堀江怜央君、森田 翔君の5人が、専攻医として入局してくれた。有能かつさわやかな、彼らの成長が本当に楽しみである。彼らが立派な耳鼻咽喉科医になれるよう、同門会の先生方、医局の先生方のさらなるご協力をお願いして、巻頭言とさせていただきます。

会長あいさつ

岩武博也

四門会の皆様方におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。皆様には日頃より、四門会発展の為に格別のご高配を賜り、誠に有難く心より厚く御礼を申し上げます。

平成最後の年となる本年6月に開催された第80回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会に際しまして会員の皆様から格別のご高配を承りまして誠にありがとうございました。おかげさまで多くの会員の先生方より目標額を大きく上回るご寄付をいただく事ができました。この場をお借りして御礼申し上げます。本学会は四半世紀前に竹山勇先生が会長として我々の教室が開催しておりました。当時医局員として学会運営に携わっていた思い出がありますが、その時にお聞きした事で今でも印象に残っているのは元々は京都大学の学会であった耳鼻臨は箱根の山を越えて関東で開催されることはほとんどない学会だから必ずや成功させる様にとという話でした。その後どうなっているのか気になり調べてみたところ関東での開催は80回の長い歴史の中で今回が6回目だったようです。今回の学会も多くの参加者があり医局員総出で見事に素晴らしい学会運営をしてくださいました。前回の日本めまい平衡医学会の運営と合わせてとても良い経験ができ医局員の団結力がより一層高まったことと思われまます。



そして来年5月に開催される第120回日本耳鼻咽喉科学会総会において宿題報告を肥塚教授がいたします。まさに新しい時代の幕開けにふさわしく肥塚教室の集大成であります。当然、同門会といたしましても最大限のご協力をしていかねばなりません。医局員はこの準備で忙しい日々が続くでしょうが今後の教室の飛躍、発展のために頑張ってくださいと思います。

さて、平成24年4月より四門会会長を務めて参りましたが、今年度をもって晴れて卒業する事になりました。この7年間色々なことがありましたがなんとか会長の職務を勤め上げることができたのはひとえに会員の皆様のご協力のおかげでありました。改めまして心より感謝申し上げます。来年度より服部新会長の元でさらに四門会を発展させていただけますよう引き続き会員の皆様のご協力を何卒宜しくお願いいたします。

最後になりましたが、会員の皆様の今後一層のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。

医局長あいさつ

三上 公志

今年度で医局長 2 年目となります。今年度の大きなイベントとしましては、第 80 回耳鼻咽喉科臨床学会が行われたこと、第 120 回日本耳鼻咽喉科学会総会（2019 年）肥塚教授の宿題報告に関する準備です。第 80 回耳鼻咽喉科臨床学会では主に医局員の人員配置の調整を務めさせていただき、皆様の協力により大きな問題なく、無事に終える事が出来ました。宿題報告に関する準備として、肥塚先生のご指導のもと、宮本先生を中心に研究を行っています。



平成 30 年度に新たに入局した医局員 5 名を含めると、3 年間で計 16 人のフレッシュな耳鼻咽喉科専攻（後期研修）医が入ってきて、若い力が集う医局となっております。しかしながら、同時に彼らは発展途上の将来豊かな医師でもあり、我々指導すべき上級医の責務が問われることとなります。平成 29 年度より、教育に重点を置き、同年より始まった新専門医制度に対応するよう手術症例などを管理するよういたしました。さらに、積極的に専門外来に参加させるようにすることで、より専門的な知識・経験が得られるように配慮しております。来年度入局予定者は 2 名と変わらず入局が継続的になっており、今後ともさらに教育が充実するように努力してまいります。

来年度より医局長は齋藤善光に交代致しますが、医局が発展するよう全力でサポート致します。これからも四門会の先生をはじめ、諸先生方にはご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

新入医局員あいさつ

赤羽 邦彬

平成 30 年度を以て聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科に入局致しました赤羽邦彬と申します。出身地は東京世田谷区、出身高校は私立暁星学園高等学校、出身大学は聖マリアンナ医科大学です。部活動は一年次より柔道部に所属しており、幹部学年時には主将を務めた経験があります。昭和 63 年 6 月 26 日生まれ、今年で 30 歳になりました。今年の 6 月に入籍をし、新婚生活を送っております。私の父は慈恵会医科大学を卒業し、現在は一般内科として開業しております。



私が医師を志した理由の大部分は、父の影響であります。私の家系は代々医者営んでおり、私の知る限りでは男子は皆、医学に携わっています。しかし、私には医者という職業が近い様で遠い存在のように思え、自身の将来像と結び付けることは困難でした。母型の祖父が建設業を営んでいた関係もあり、幼少期から建設業に興味を抱いていました。汗水垂らし現場で働く大人たちを見て、子供ながらに尊敬と憧れの念を抱いていたのを覚えています。その夢は高校生になっても変わらず心に閉まっていました。

高校生になり、一応理数系クラスに進んだ私は、そこで数学と出会いました。それまで勉学に興味の欠片もなかった私が、この時初めて参考書を手に取り、机に向かうこととなります。来る日も来る日も数学の問題ばかり解き、数学者の書記を何冊も読み、少しずつ数学者への道を歩み始めました。ところが現実はそう甘くはありませんでした。受験に際し、数学者への一般的な過程として応用数学科を受験しようとしたのですが、そこで初めて父に医学部以外を受験することを打ち明け、激高した父に勘当されかけました。この時の私に、それでも受験する気概があれば、おそらく父は応援してくれたことでしょう。私は勘当されることを恐れ、驚くほど簡単に数学者の夢を捨てました。この程度の反対で諦められるなら、その道は到底踏破することなどできなかったのでしょう。父はそんな私の愚かで浅はかな考えを理解し、諦める決心をつけさせてくれたのです。こうして私はようやく、医学の道を歩む決意がつけました。そして春、予備校の優秀な講師陣の尽力のおかげで、私は奇跡的に聖マリアンナ医科大学に骨を拾っていただきました。このとき私は自信に満ち溢れ、胸には希望と夢を

抱いていたと記憶しています。

現実は無情です。私は、幼少期から両親や家庭教師、予備校の講師達の努力と援護があったことで、低空飛行ながらも大きな失敗や挫折は経験したことがありませんでした。自分は優秀であり、他人とは一線を画す、特別な存在であると勘違いしていた私は、入学してすぐの一年次に留年を経験しました。足元から世界が崩れていくような衝撃でした。およそ現実の出来事とは理解できず、現実逃避の日々でした。絶望し、現実を拒絶し、この世の全てを憎む勢いでしたが、約1週間の休養の末、持ち前の明るさで復帰することが出来ました。猛省し、心を入れ替え、再出発を切り出した私でしたが、真の愚か者は過ちを繰り返すものです。二年次に進級した途端、緊張の糸が切れてしまい、そこで人生二度目の挫折を経験します。いくら泣いても失った時間は返ってきませんでした。猛省し、心を入れ替え、再出発を切り出した私でしたが、真の愚か者は過ちを何度だって繰り返すものです。なんとか医学部六年まで進級しましたが、油断とは忘れた頃に訪れるもので、卒業を逃しました。さすがに三度目ともなると心も強くなるもので、自分の愚かさを深く掘り下げ、今後の人生への教訓としました。私は、自分がそれほど賢くないことを強く認め、人生訓として前向きに捉えました。物を覚えるときはまず紙に書く、記憶するには何度も反芻する、無知を恥じない。大学入学時に抱いていたプライドや負けず嫌いな性格は、卒業までの9年間で跡形もなく消え去り、争いを避ける豊かな心が芽生えました。これは大学生活における最大の成果であると確信しております。

正直に申しますと、耳鼻咽喉科に入局した理由はまだよく分かりません。しかし、迷いはありませんでした。選んだ理由を説明することは難しいですが、他の科との違いならはっきりしています。当科の先生方は、こんな不出来な私でさえも、決して見捨てません。時に厳しく、優しく、正しい道を教えてください。愚かな私がいまこうして医学の道を歩めるのは、間違いなく先生方の根気が強いからであると考えます。いまは只、我武者羅にぶつかって、生きていく所存であります。その果てに耳鼻咽喉科を選んだ理由を見つけることが出来れば幸いです。

新入医局員あいさつ

久保 佑介

今年度、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室に入局させていただきました久保佑介と申します。

出身は東京都で、平成28年に聖マリアンナ医科大学を卒業後、同大学病院で2年間初期研修を行いました。もともと、学生の頃にBSLで外科系をローテーションしていた頃は手術にあまり興味が持てず内科系を考えておりましたが、実際に臨床研修が始まり耳鼻科をローテーションさせていただくと手術に対するイメージは全く変わりました。これを期に自身の進路について考え方が少しずつ変わり、気付けば2回目、3回目と耳鼻科を主体に研修ローテーションを予定していました。

耳鼻科は診断から治療まで一貫してできる診療科、というフレーズはよく聞いてはおりましたが、入局を意識して研修生活を送ってみると、非常にこのフレーズを実感する機会が多く、今考えてみるとこれが耳鼻咽喉科医となることの決め手になったように思います。

現在は西部病院で医局員として、病棟業務や外来業務を諸先生方にご指導いただき充実した日々を過ごさせていただいております。その中で、耳鼻咽喉科医として自分がしていることに自信が持てるような、技術・知識・人間力を身につけることが今後の目標です。そのためにはまだまだ未熟な点が多く、周りの先生方、特に近くでいつでも親身にご指導いただいております先生方にはご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



新入医局員あいさつ

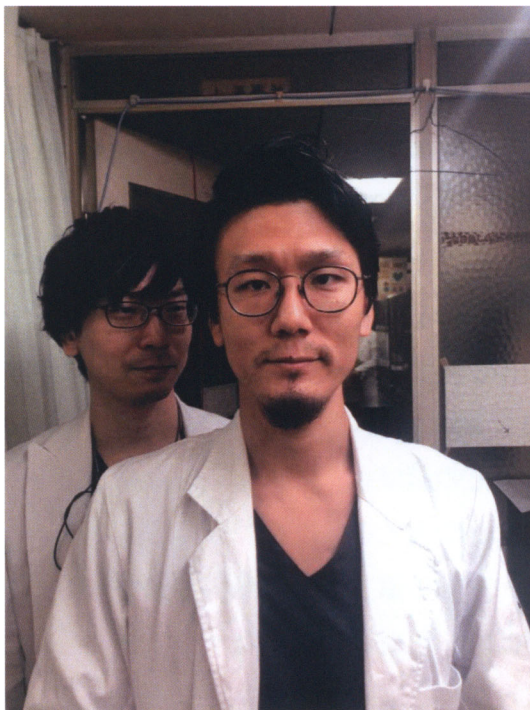
藤井 正文

今年度、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科教室に入局させて頂きました藤井正文と申します。

私の出身は横浜市で桐光学園高等学校を卒業後聖マリアンナ医科大学に入学し、6年間菅生で育ちそのまま母校での初期臨床研修を2年間行いました。

私の父は小児科医であり、学生時代の頃から小児科に興味をもっておりました。しかし、小児科、耳鼻科を研修でローテートした際に幅広く内科的、外科的側面を持ち、かつ小児も診ることができる耳鼻咽喉科領域に興味をわき、入局を決めました。

現在は本院で、病棟、外来、手術と全てにおいて日々先生方に御指導を頂き学びの日々です。先生方全員が非常に優しく、いつでも丁寧に御指導下さり、とても充実した後期研修医生活を送っております。今年度入局者は5人と恵まれており、切磋琢磨、助け合いながら頑張っています。未熟な点ばかりでご迷惑をおかけすることも多々あると存じますが、少しでもこの教室の力になれるよう日々精進して参りますので、今後とも御指導御鞭撻の程よろしくお願い致します。



新入医局員あいさつ

堀江 怜央

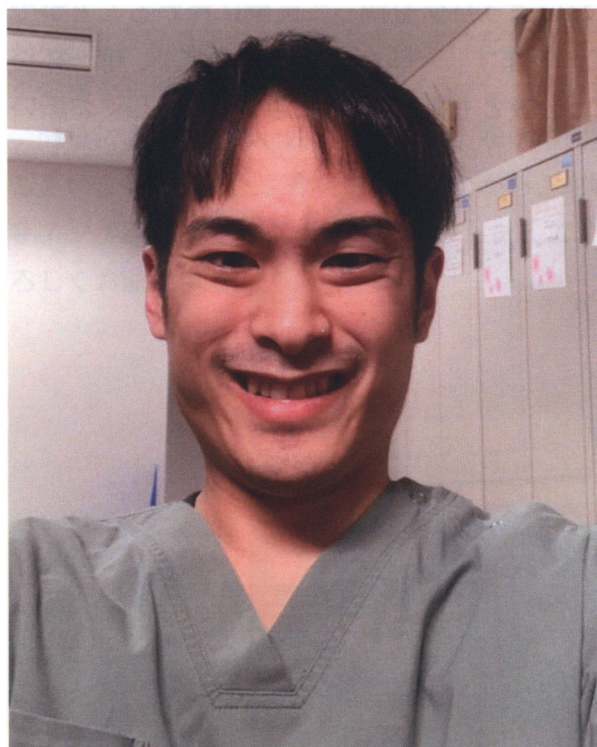
平成 30 年度より、聖マリアンナ医科大学病院耳鼻咽喉科に入局させていただきました堀江怜央と申します。

出身は神奈川県相模原市で、平成 28 年度に聖マリアンナ医科大学を卒業後、同大学病院で 2 年間初期臨床研修を行いました。

もともと進路としては小児外科を考えておりましたが、研修期間に耳鼻咽喉科をローテートした際に幅広い分野、特に感覚器という生活における QOL に直結する学問に大きな興味を抱きました。また医局員の皆様は仕事とプライベートでメリハリがあり、雰囲気もとても良く、ここで学びたいと思い入局を決意いたしました。

現在は川崎市立多摩病院で勤務しており、病棟業務、外来業務では諸先生方から丁寧にご指導いただき、手術では扁桃摘出術、鼻副鼻腔手術、また頭頸部良性腫瘍など幅広い手術症例を経験でき、充実した毎日を送っております。

未熟な点ばかりで、先生方にはご迷惑をおかけいたしますが、日々精進して参りたい所存でありますので、今後ともご指導ご鞭撻の程をよろしくお願い申し上げます。



新入医局員あいさつ

森田 翔

今年度より聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科教室に入局させていただきました森田翔と申します。出身は東京都で私立城北高校を卒業後、聖マリアンナ医科大学に入学いたしました。卒業後は同大学病院にて2年間の研修生活を送り、今年度入局となっております。

医学部5年時の病院実習にて初めて耳鼻科の先生方と密接に関わらせて頂き、その頃より耳鼻科に興味を持つようになりました。当時経験した手術についても今でも思い出す事ができるように大変新鮮であり貴重な経験をさせていただくことができました。また6年時の1ヶ月間の実習でも耳鼻科を選択し、外来や手術の現場で多くの事を学ぶ事ができました。今思うと私の学生時代を振り返るといつも近くに耳鼻科があった用と感じます。

初期研修医の2年間では耳鼻科を合計5ヶ月間ローテートし扁桃摘出術やリンパ節生検などの手技も多く経験させていただけただけでなく、病棟業務や外来診療に関しても多くの事を学ぶ事ができたことで、さらに耳鼻科への興味が強まり入局を決めました。

現在は本院で、病棟業務や外来、手術と全てにおいて諸先生方に御指導を頂いております。ひとりの耳鼻科医として恥ずかしくないよう自信を持って医療に携わることができるよう日々精進していきたいと思っております。未熟な点ばかりですが、精一杯努力を重ねていきたいと考えておりますので、今後とも御指導御鞭撻の程よろしくお願い致します。



退局のご挨拶

西馬込あくつ耳鼻咽喉科 阿久津征利

2018年3月をもって、医局を退局致しました。

私が入局した頃、私は4年ぶりの入局者だったため、すぐ上の学年に先輩がおらず、とても多くの経験を積ませて頂きました。毎年2回は総会で発表をし、頸部から耳まで幅広く手術の経験をさせて頂き、とても充実した教育体制でした。また大学院にも進学させて頂き、様々な研究を与えていただき、特にめまいに関して多角的な角度に見ることができ、診療にも役立ちました。その後は、大学を離れ、多摩病院に在籍し、ストレスの研究をしながらも、晝間先生からマネジメントの難しさを教わり、少ないながらも後輩の指導をさせて頂き、充実した日々を送らせて頂きました。

しかし病院で診療をしていく中、ご紹介頂く患者様の手術・治療をする手前の段階での予防医療に興味を持つようになりました。こうすれば入院が必要なくなるのではないか、手術しなくてもよくなるのではないか、患者様の負担を減らせるのではないかという気持ちを持つようになり、そのためにはいつでも相談できる環境が必要であると考え、開業を決意しました。現在も試行錯誤しながらも前に進んでおります。

以前に、5年生のBSLアンケートをまとめたものを四門会誌に載せて頂く機会を頂きました。その後四門会の先生方より寄付を頂き、その効果で多くの医局員が入局致しました。この場をお借りし、御礼申し上げます。

開業にあたっては、四門会の先生方を始め、多くの先生にご迷惑をおかけし、大変申し訳ございませんでした。今後も、微力ながら、地域医療への貢献、医局への貢献、愛する聖マリアンナ医科大学のためにできることをしていきたいと考えております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

国内留学を終えて

聖マリアンナ医科大学病院 耳鼻咽喉科 深澤雅彦

私は、2015年10月～2018年9月までの3年間、築地にあります国立がん研究会中央病院頭頸部外科に出向させていただいており、このたび3年間の研修を終えて10月1日からまた聖マリアンナ医科大学病院耳鼻咽喉科に帰ってくる事ができました。出向前の医局の状況は、今とは異なり、医局員不足に皆で何とか堪え忍んでいるようなそんな状況でしたが、その様相は一変しており、きらきらした若者たちが多数在籍する、活気にあふれる医局になっていました。

出向前の目標として渡辺先生在籍時に取得されておりました頭頸部がん専門医、ならびに、いずれは頭頸部外科学会指定認定研修施設、準認定施設の再取得を目標に研修にでましたが、研修期間を終え、頭頸部がん専門医試験の受験資格を得ることができ、無事その資格を取得することができました。今後は頭頸部がん専門医指導医（今後5年後の更新で取得可能）の資格を取得し、認定施設（準認定施設で年間新患数60例・指定認定施設で100例以上）の再取得を目標に診療に取り組みたいと考えています。

厳しい医局状況の中、3年間もの長きにわたり留学させていただいた肥塚教授ならびに医局を支えてくださっている諸先輩方々及び後輩医局員の皆様には大変感謝しています。この場を借りて深く御礼申し上げます。またOBの先生方におかれましては、引き続き医局員一同、温かく見守っていただくとともに、ご指導ご鞭撻の程よろしく願いいたします。

第 80 回 耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会を主催して

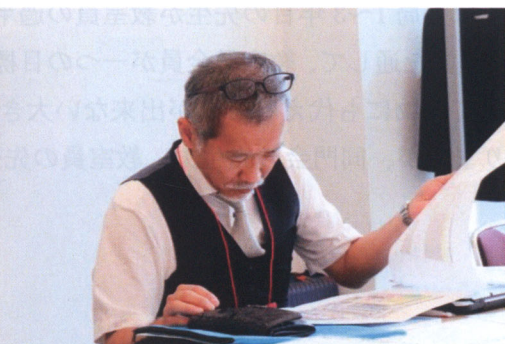
宮本 康裕

第 80 回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会（耳鼻臨床学会）は、肥塚泉会長のもと会期は平成 30 年 6 月 29 日から 30 日、会場はパシフィコ横浜会議センターで開催されました。開催を無事に終えることが出来たのも、同門会の先生方による手厚いご協力によるものと感謝しております。この場をお借りしまして御礼申し上げます。また、平成 26 年の第 73 回日本めまい平衡学会に続けて、事務局長という貴重な経験を得る機会をいただき肥塚先生、また教室員の先生方に感謝します。

耳鼻臨床学会を聖マリアンナ医科大学が主催するのは、平成 5 年に竹山勇名誉教授が会長を務められた第 55 回以来 25 年ぶりのことでもあります。前回の主催を経験されている現役の医局員は岡田智幸先生ただ一人という状況でしたが、4 年前の学会主催を経験していた医局員の先生方がしっかりと自ら動いてくれたことにより、大きな問題もなくスムーズな学会運営ができたのではないかと思います。また、新しく加入した先生たちの若さみなぎる雰囲気もあり、他大学の先生方からも“マリアンナは雰囲気が良くて、すごくいいね!!”と多くのお褒めの言葉をいただくことが出来ました。

今学会のテーマは『To the bright future』と銘打ち、耳鼻咽喉科の明るい未来を少しでも指し示せるものとなればという思いから、色々な企画を建てました。特別講演は海堂尊先生に、海外招聘講演は Magnusson 先生にお願いしました。シンポジウムは「メニエール病の最前線」、パネルディスカッションは「女性医師のキャリアプランの立て方・キャリア形成の考え方」、「耳鼻咽喉科診療 up to date」を行いました。また、本学会では初めてとなるハンズオンセミナーも開催しました。また、本学会の定番行事である早朝ランニング&ウォーキングも開催し、多くの先生方にご参加いただきました。

学会を主催するという事は、教室として大変名誉なことであり、そのこと自体が大きな意味を持ちます。しかし、それ以上に意味を持つものがあると自分は思います。特に今回の学会主催では入局 1~3 年目の先生が教室員の過半数を占め、多くの役割をこなしてくれました。学会運営を通して、教室員全員が一つの目標に向かい力を合わせる経験をする事が、教室にとって何物にも代えることが出来ない大きな財産になったのではないかと思います。最後になりますが、同門会の先生方、教室員の先生方、本当にありがとうございました。





平成 28 年度 耳鼻咽喉科臨床学会 学会賞を受賞して

梅原 毅

この度、耳鼻咽喉科臨床学会に投稿した論文：「小児機能性難聴症例の検討」で、学会賞を頂くことができました。この論文は、私が聖隷浜松病院に勤務していた時に、小児外来を担当していたこともあり投稿したものです。機能性難聴は、器質的障害に起因すると考え難い難聴と定義され、心因性難聴と詐聴とがあります。心因性難聴は、近年の社会環境の変化により症例の増加や予後の悪化が懸念されています。特に小児では診断に苦慮することもあり、他の難聴疾患として無用な治療（ステロイドの投与など）がなされている例もあります。今回は、主に SR はスクリーニングに有用で ABR は診断に最も有用な検査であること、13 歳未満では予後不良な結果であり、低年齢児では更に慎重な対応と長期間の経過観察を要することなどを報告しています。小児の機能性難聴における耳鼻咽喉科医の社会的役割は重要であり、病態や検査所見に精通し的確な診断と適切な対応をしていくことが重要であると考えます。地味な論文ではありますが、学会にて評価して頂いたことを嬉しく思います。また、今までお世話になった先生方の御指導の賜物と感謝しています。私は、聖マリアンナ医科大学の後、島根大学、浜松医科大学、山口大学と様々な医局を渡り歩きました。自分としては、医師になって最初の 4 年間に聖マリアンナで学んだスキルを基に努力してきたつもりです。また、学会発表や論文投稿など、形にすることでお世話になった先生方から自分を認めてもらえると感じてきました。今回の受賞により、多少なりともお世話になった先生方への恩返しになれば幸いです。現在は実家を継承し開業医としての生活が始まったばかりですが、高いモチベーションを維持して頑張りたいと思います。この度は、本当にありがとうございました。

四門会賞を受賞して

釧持 睦

昭和 62 年卒、11 回生の釧持睦です。

この度、平成 30 年度の四門会賞をいただきました。平成最後という特別な年に頂くことができ、感無量でございます。

今回、私がこの賞を頂戴した大きな理由として、今年、神奈川県医師会の学術功労賞を受賞したことが挙げられます。これは正しく四門会員の先輩方のお力により得ることが出来ました。

私は自分をとても運の強い人間だと思います。私の人生では多くの素晴らしい先輩方のアドバイスにより、実力以上の結果を残せております。

耳鼻科入局の時は南定先生に背中を押していただきました。入局後、研究の楽しさを教えて頂きました大橋徹先生、現在の実験現場でとてもお世話になっている越智健太郎先生と木下裕継先生、また開業後も大学で実験を継続できることは現教授の肥塚泉先生の寛大なるご配慮あつてのことと思っております。また、この度の学術功労賞も星川智英先生のご推薦という強い後押しがあつたためです。このように先輩方のご指導により今の自分があると思っております。

入局以来、多くの先生方にお世話になり感謝の念に堪えません。ありがとうございました。今の研究はまだまだ未完の状況なので大橋先生をはじめ越智先生、木下先生のお力添えが必要です。今後とも何卒宜しくお願い致します。

改めましてありがとうございました。

四門会賞を受賞して

佐藤 成樹

2017 年度の四門会賞を受賞したことは誠に光栄なことであります。これも竹山勇先生、加藤功先生、大橋徹先生、肥塚泉先生というめまい平衡の専門家でいらっしゃる歴代の教授をはじめとする諸先輩の御指導の、また同僚及び後輩の先生方のご協力の御陰であると感謝申し上げます。

私が大学病院でめまい外来を担当するようになった頃にブームになり、その後 BPPV の標準的な治療と位置づけられるようになった Epley 法と言う運動療法があります。とても良い治療なのですが、適応にならない患者さんもいます。そういう患者さん達を「他の先生はどうしているのだろうか」という素朴な疑問から始まり、「どうしたらよいか」、「何ができるか」を考えた結果、たどり着いたものが今回受賞した「BPPV に対する非特異的運動療法-ROM 法」です。幸い他大学、他施設の先生も含め多くの人に行っていただくようになっていますが、しかし単に「ROM 法行えばそれで良い」というような方もいるように見受けられ、どのようにそれを行うべきか、また ROM 法の持つ真の意義を本当に理解していただけているか、というと懸念も感じております。この受賞により、ROM 法の持つ意義を周知していく責任を背負ったことになると考え、さらに努力していく所存であります。

大学院生便り

荒井 光太郎

近況報告

大学院 2 年目の荒井光太郎と申します。聖マリアンナ医科大学を卒業後耳鼻咽喉科医局に入局致しました。3 年目からは横浜市西部病院に配属となり、現在に至ります。耳鼻科医師として臨んだ初日は突如初診から始まり、大いに混乱してしまいましたが、上級委の手厚いサポートにより事なきを得ました。しかし休む間も無く午後には緊急気管切開が行われ、一日の仕事が終わり帰宅した際には、このままやっていけるのだろうかと不安になりました。その後も諸先輩方に多大な御迷惑をお掛けしつつ日々の診療や手術、研究に勤しんでおります。昨年には軽井沢にて開催されたためまい平衡学会に参加させていただき、様々な議題の発表から学ばせていただきました。また、今年5月に聖マリアンナ医科大学が主催した耳鼻臨床学会総会にもスタッフとして参加し、学会の規模の大きさや内容の濃さを受け、なんとなく見るだけであった学生時代とは明らかに異なる情熱や労力を感じました。

現在は4年目となり後輩も入ってきました。自分などがいうのもおかしいですが、中々に器用な奴でして、内視鏡の持ち方や扁摘の速度や正確性ひとつとっても、内心日々穏やかでない状況が続いております。研究ですが、マウス内外リンパについての探索を中村先生から引き継ぎ、情報解析のためコンピューターと見つめ合っています。様々なイベントが日々発生しますが、岡田部長や中村先生、そして後輩とともに各分野に向けて邁進する所存です。

大学院生便り

四戸 達也

大学院3年の四戸達也です。昨年の大学院生便りにも掲載させていただきましたが、現在は「視覚刺激が前庭動眼反射に及ぼす影響」を主テーマに研究を行っております。データ収集・解析が終了し、論文を諸先輩の先生方のご指導の下、日々作成しております。

これと同時に大学めまい班では、2019年の宿題報告に向けて「高齢社会における平行障害の病態とそれへの対応」という課題名で研究を行っております。日本は2013年に高齢化率が25%を超え、2030年には30%、2050年には40%を超えるとされています。一方で75歳以上の高齢者では体平衡の異常を30%以上で訴える報告もあります。高齢者においてめまい・平衡障害は、転倒のリスクファクターの1つであることが知られており、これらの既往があると転倒のリスクが約2倍となり、脳卒中の既往と同程度であることが知られています。そこで、我々は高齢のめまい患者における平衡機能を重心動揺計、歩行センサーマット等を用いて評価する研究を行っております。

日々、実験や考察に追われる毎日ではありますが、これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

大学院生便り

西本 寛志

日に日に秋が深まり、あっという間に冬を迎える季節となりました。風の冷たさが身に染みるようになりましたが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。

この度は大学院生便りとして、私の研究内容など紹介させていただきます。

私の研究テーマは、蝸電図を用いたヒト内耳の電気生理学的考察です。秦野赤十字病院耳鼻咽喉科で勤務されている大橋徹先生を師とし、研究を行っております。これまで動物実験において、数ミリ秒間隔で2回の音刺激を与えて蝸電図の action potential (AP) を測定した場合、2回目の AP 振幅が減弱する現象が知られております。これは順応現象および基底膜の抑圧現象によるものと考えられており、ヒトを対象として聴覚心理学的な研究は行われていますが、電気生理学的検討は未だ行われておりません。私は臨床の場において健常耳および難聴耳に対して上記の検査を行い両群で比較検討することで、難聴耳の内耳の電気生理学的変化の解明を目指しております。蝸電図検査は鼓室内誘導法で行うため侵襲が少なくなく、症例を得ることが難しいためデータ収集に難渋しておりますが、師の教えのもとで努力して参る所存です。

臨床においても精進して参りますので、今後とも御指導御鞭撻をお願い申し上げます。

大学院生便り

望月 文博

大学院2年目の望月文博と申します。聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科に所属させて頂いてから、5年目となります。私が現在行っている研究内容や臨床を中心にご報告させていただきます。

大学院での主な研究テーマは、「視覚入力の前庭-眼反射（半規管-眼反射および耳石-眼反射）におよぼす影響」です。この研究は、当教室が所持している回転いす検査装置が欠かせないため、他教室では行えない研究と言っても過言ではありません。これまで、北島先生、三上先生、宮本先生、阿久津先生ら諸先輩方が行われてきた研究の蓄積のもと新たなデータを収集しております。昨年四戸先生が本誌で、報告している研究と対になる研究であり、切磋琢磨し協力しながら行っております。今回得られる結果から、前庭機能障害患者さんのリハビリの効果や、現在のめまいリハビリの改良などにつながることを目指して行っております。

また、大学院生として2019年の日本耳鼻咽喉科学会での宿題報告という名誉ある研究にも携わらせて頂いており、充実した研究生活を過ごさせて頂いております。

臨床面でも、めまい外来での専門的外来加療に加え、頭頸部チームに9月まで所属させて頂いただき、頭頸部郭清や喉頭全摘術などの手術の執刀をさせて頂きました。10月からは、耳の手術や鼻の手術の勉強をさせて頂くため、所属チームの変更をさせて頂き、臨床面でも日々ステップアップできるように精進してまいりたいと思います。

このように、充実した医師生活ができることは、肥塚先生をはじめ、教室の先生方のご指導ご鞭撻のおかげと感じております。

簡単ではございますが、わたくしの現状報告とさせていただきます。

医局構成

平成 31 年 1 月 1 日現在

| | |
|-------|--|
| 名誉教授 | 竹山 勇 |
| 客員教授 | 大橋 徹・加藤 功 |
| 教 授 | 肥塚 泉 |
| 准 教 授 | 岡田智幸・晝間 清・谷口雄一郎 |
| 講 師 | 赤澤吉弘・春日井 滋・佐々木祐幸・宮本康裕 |
| 助 教 | 三上公志 (医局長) 明石愛美・井戸光次朗・斎藤善光・鈴木 香・ 中村 学・深澤雅彦・藤田聡子 |
| 任期付助教 | 赤羽邦彬・小野瀬好英・神川文彰・川島孝介・久保佑介 多村悠紀・藤井正文・堀江怜央・森田 翔・山田善宥 |
| 大学院生 | 荒井光太郎・稲垣太朗・大原章裕・笹野恭之・四戸達也・西本寛志 望月文博 |
| 非常勤講師 | 芋川英紀・岩武博也・大草方子・越智健太郎・小宅大輔・北島明美 木下裕継・工藤典代・釧持 睦・佐藤成樹・武田憲昭・中村 正 日比野 浩・堀井 新 |
| 登 録 医 | 及川貴生・高橋 姿 |
| 研 究 員 | 犬飼賢也・加藤弓子・山田善一 |
| 診療技術員 | 北林圭子・久保田恵子・久保田成美 |
| 医局秘書 | 新山静江 |
| 教授秘書 | 秋山恵子 |
| 関連病院 | AOI 国際病院、麻生総合病院、稲城市立病院、川口総合病院、 川崎市立多摩病院、癌研有明病院、共立蒲原総合病院、京浜総合病院、 左近山診療所、島田総合病院、湘南病院、国立病院機構横浜医療センター、 総合高津中央病院、ソレイユ川崎、東京労災病院、秦野赤十字病院、 淵野辺総合病院、横浜甞生病院、横浜市西部病院、横浜総合病院 |

(50 音順敬称略)

出張病院および外勤病院

| 病院名 | 赴任医師 | 電話 | fax |
|--------------------|-------------------------------|--------------|--------------|
| 西部病院 | 岡田智幸 中村 学 荒井光太郎 久保佑介 | 045-366-1111 | 045-366-1190 |
| 多摩病院 | 晝間 清 井戸光次朗 西本寛志 堀江怜央 | 044-933-8111 | 044-930-5181 |
| 国立病院機構 横浜医療センター | 佐々木祐幸 小野瀬好英 | 045-851-2621 | 045-851-3902 |
| 横浜総合病院 | 山田善宥 | 045-902-0001 | 045-903-3098 |
| 癌研有明病院 | 新橋 涉 | 03-3520-0111 | 03-3570-0343 |
| 東京労災病院 | 川島孝介 | 03-3742-7301 | |
| AOI 国際病院 | 外勤医師 | 044-277-5511 | 044-277-5747 |
| 麻生総合病院 | 外勤医師 | 044-987-2522 | 044-988-0878 |
| 稲城市立病院 | 外勤医師 | 042-377-0931 | 042-379-1310 |
| 川口総合病院 | 外勤医師 | 048-253-1551 | 048-256-5703 |
| 共立蒲原総合病院 | 外勤医師 | 0545-81-2211 | 0545-81-2208 |
| 京浜総合病院 | 外勤医師 | 044-777-3251 | 044-777-7319 |
| 左近山診療所 | 外勤医師 | 045-352-4184 | 045-352-4183 |
| 島田総合病院 | 外勤医師 | 0479-22-5401 | 0479-23-3613 |
| 湘南病院 | 外勤医師 | 046-865-4105 | 046-866-4584 |
| 総合高津中央病院 | 外勤医師 | 044-822-6121 | 044-822-7995 |
| ソレイユ川崎 | 外勤医師 | 044-959-3003 | 044-954-5581 |
| 秦野赤十字病院 | 外勤医師 | 0463-81-3721 | 0463-82-4416 |
| 淵野辺総合病院 | 外勤医師 | 042-754-3700 | 042-754-2201 |
| 横浜甞生病院 | 外勤医師 | 045-301-0533 | 045-303-5736 |

《めまい外来》 金曜 PM

担当医：肥塚 泉、三上公志、鈴木 香、望月文博、四戸達也、大原章裕

昨年 10 月より聖マリアンナ医科大学にまいりました、鈴木香と申します。

めまい外来は、4 月から多摩病院より臨床大学院で研究されている大原先生が加わり、今年度は肥塚先生をはじめ 6 名で金曜午後に担当しております。

平素より貴重な症例をご紹介いただき、誠にありがとうございます。

おかげさまで、当院のめまい紹介患者様は年々増加しており、この場をもちまして御礼申し上げます。

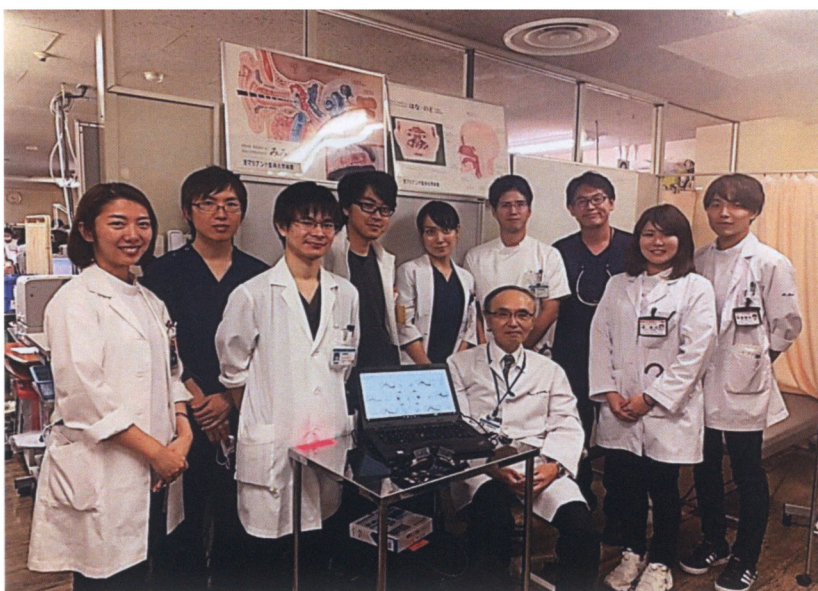
今年めまい班にとって、うれしいニュースがありました。来年度の日本耳鼻咽喉科学会の宿題報告を肥塚教授が担当されることになったのです!!

これは新設の医大では初の快挙であり、肥塚先生のご研究の集大成でもあります。

これは私たちめまい班にとっても非常に栄誉なことであり、それと同時に身の引き締まる思いでいっぱいです。そして現在は、肥塚先生のもとで高齢者の歩行研究を行っております。この結果を宿題報告として全国に発信し、少しでも日本の高齢化社会に貢献できればと思います。

また v-HIT や VEMP など検査機器が揃っており、内耳機能検査の精密さに加え、3 名の優秀な検査技師さんが検査を行っていただいております。これらもマリアンナの強みだと思います。

肥塚教授指導のもと、より良いめまい診療ができるように精進してまいりますので、今後とも何卒よろしくお願いいたします。(鈴木 香)



《頭頸部腫瘍外来》 火曜日AM

担当医：赤澤吉弘、三上公志、深澤雅彦、明石愛美

頭頸部腫瘍外来を本年度より担当しております明石愛美(平成23年卒)です。

私は、2人目の産・育児休暇明けの2017年冬より腫瘍班に配属となり、そのご縁から頭頸部腫瘍を学ぶ機会が与えられ、本年度より、腫瘍外来を担当しております。

毎週火曜午前に、赤澤(平成10年卒)、深澤(平成15年卒)、三上(平成16年卒)、明石の4人体制で行っております。

昨今の頭頸部領域での話題は、放射線化学療法の治療成績の向上や経口腔的切除をはじめとする機能温存の低侵襲手術やノーベル生理学・医学賞で注目を集める、免疫チェックポイント阻害薬 nivolumab(オプジーボ®)です。Nivolumabは再発または遠隔転移を有する頭頸部癌に適応であり、当院でも続々と症例を重ねております。

本年度10月に、深澤雅彦先生が国立がんセンター中央病院での3年間の国内留学を終え、当院に帰ってこられました。前医での経験を生かし、当院での頭頸部診療において飛躍的な向上のため、日々、御指導いただき、チームの更なる発展を目指しております。

最近、頭頸部患者様の高齢化も進んでおり、治療選択の難しさを痛感しております。

私は、まだまだ、診療においては未熟ですが、頭頸部チーム一丸となって、カンファレンスを繰り返し患者様の各々に見合った治療を提供できるよう日々、心がけてまいります。

OBの先生方を含む、近隣医療機関からの頭頸部腫瘍のご紹介があり、年々、頭頸部症例や手術件数は増加しております。この場をお借りしてお礼申し上げます。

引き続き、地域の患者様には信頼のおける治療を提供し、安心して頂けるよう心掛けて参りますので、今後ともよろしく願いいたします。(明石愛美)



《喉頭・音声・嚥下外来》 水曜AM

担当医：赤澤吉弘、春日井滋、神川文彰

喉頭外来は以前と同様、水曜午前に診療しています。現在は赤澤（平成10年卒）、春日井（平成13年卒）、神川（平成26年卒）の3名体制です。

喉頭チームのトピックをお知らせします。まずは手術用顕微鏡です。おそらく多くのOBの方々が目にしたであろう東ドイツ製の顕微鏡がついに引退しました。最後はロックが利かなくなり、光源部分はガムテープで補強するという痛ましい姿で、さすがの手術室も新しい顕微鏡の購入を快く？快諾してくれました。新しい顕微鏡は特別な機能はありませんが、これまで手動で行っていたズームやフォーカスがようやく電動でできるようになりました。当たり前ですね。しかし、新型はやや大きめで重量感があり、手軽さ、取り扱いやすさでは旧式に軍配が上がります。ラリングには旧式ぐらいの装備がちょうど良いかもしれません。

次にラリング用の鉗子を追加購入しました。これまで永島医科の鉗子を使用していましたが、新たにフランスの音声外科医が開発したMicro Franceの鉗子（メドトロニック社）を購入しました。ハート型把持鉗子やアリゲーター鉗子、剥離子、剥離匙付き吸引管など繊細な操作を可能にする工夫を凝らしたラインナップです。近年の音声外科手術はマイクロフラップ手術を行う機会が増加しています。マイクロフラップ手術は、粘膜への侵襲を極力少なくし、組織損傷による術後瘢痕を最大限回避するために開発された手技です。基本的に病変のみを除去し粘膜上皮、粘膜固有層浅層（カバー）を温存することを目的とする繊細な操作を要求される手技です（平野）。これまで当院では声帯のう胞やポリープ様声帯に行っていた手技ですが、声帯結節や、声帯ポリープにも適応とすることができ、白板症や乳頭腫にも応用できます。これらの技術を駆使して春日井を中心に日々研鑽を重ねています。

OBの先生方におかれましてはいつも患者様をご紹介いただきありがとうございます。今後とも患者様により良い医療が提供できる様に努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。（赤澤吉弘）



《副鼻腔・アレルギー外来》 水曜PM

担当医：宮本康裕、齋藤義光、多村悠紀、森田翔

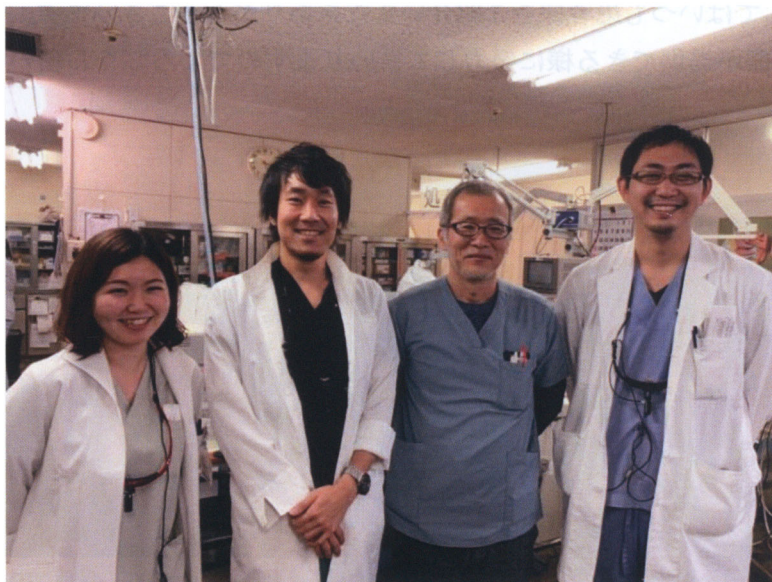
2018年4月より副鼻腔・アレルギー外来は毎週水曜日の午後、宮本康裕、齋藤善光、多村悠紀、森田翔の4人体制で行っております。

主に外科的治療としては内視鏡下鼻副鼻腔手術Ⅰ～Ⅴ型、鼻中隔矯正術、下鼻甲介手術、後鼻神経切断術を行っております。内視鏡下鼻副鼻腔手術では前頭洞病変に対して Draf type Ⅱ / Ⅲ、腫瘍含めた上顎洞病変に対しては EMMM(endoscopic modified medial maxillectomy)、強い前彎を伴った鼻中隔彎曲症に対しては Hemitransfixion approach による矯正術を行っております。手技の難易度が高いと予想される症例に関しては積極的にナビゲーションシステムを使用しております。また、患者様の年齢や全身状態に応じて局所麻酔下での手術も行っております。

また、スギ花粉症に対するシダトレン®(スギ花粉舌下液)、ダニアレルギーに対するミテイクア®(ダニ舌下錠)の舌下免疫療法も施行しております。適応症例がありましたら、是非御紹介いただければ幸いです。

私は後期研修医2年目の若輩者ですが、専門外来に携わらせて頂き、診断、手術の組み立て、手術、術後管理を一連に経験させて頂いております。このように勉強させて頂く場を頂いていますが、これも、先生方の御紹介あってのことであり大変感謝しております。誠にありがとうございます。手術件数はおかげさまで増加傾向ではありますが、まだまだ不足している状況ですので、今後とも是非御紹介下さい。

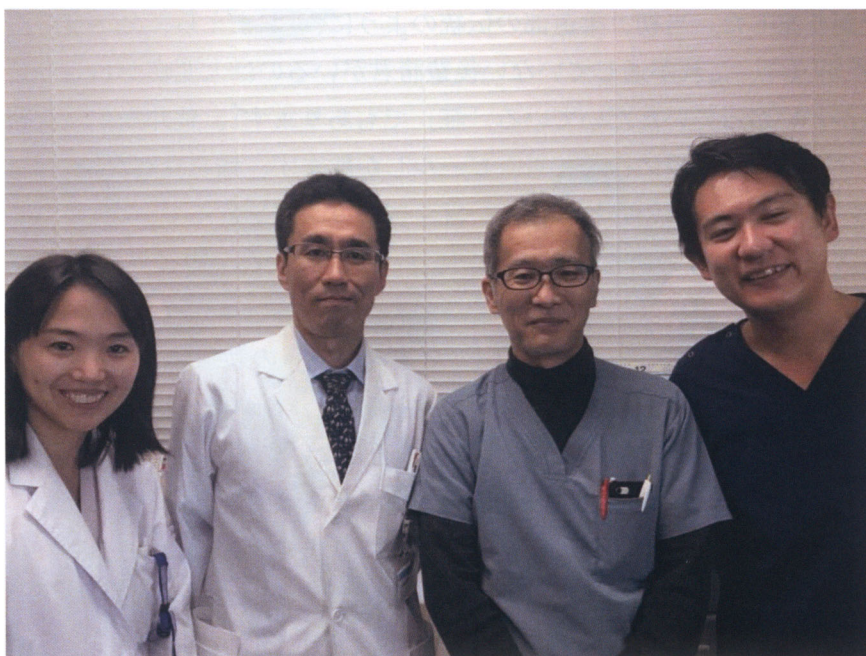
これからもより良い医療を提供し、地域医療に貢献できるよう努力して参りますので、一層の御指導御鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。(多村悠紀)



《中耳・聴覚外来》 木曜PM

担当医：谷口雄一郎、宮本康裕、藤田聡子、望月文博、越智健太郎、木下裕継、釧持睦

現在、聴覚外来は谷口雄一郎、宮本康裕、藤田聡子、望月文博、越智健太郎(非常勤)、木下裕継(非常勤)、釧持睦(非常勤)の7名で診療を行っており、慢性中耳炎、中耳真珠腫などの手術症例から小児の遺伝性難聴まで幅広く診療しております。手術件数は年々増加しており、今後は中耳真珠腫、癒着性中耳炎といった難治性中耳炎に対する外科的治療をさらに推進していきたいと考えております。術式としては外耳道後壁保存型鼓室形成術を基本とし、内視鏡を積極的に併用した approach を行っていくことで手術成績も向上しております。さらに内視鏡を用いた新しい手術法を積極的に取り入れ、内視鏡下でのアブミ骨手術をはじめ、外リンパ瘻、耳小骨奇形、小児先天性真珠腫などに対し経外耳道の内視鏡下耳科手術 (TEES) を行っています。また再生医療を応用した新しい治療法である『鼻腔粘膜上皮細胞シートを用いた鼓室形成術』に関しては再生医療新法に基づく特定認定再生医療委員会の承認を得ることができ、実際の真珠腫症例に対する手術も開始しております。主に中耳真珠腫、癒着性中耳炎が主な対象疾患になると考えておりますので、より一層のご紹介をお願いできれば幸いです。今後も、患者様により良い医療が提供できるよう努力していく所存でありますので、何卒より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。(谷口雄一郎)



関連病院だより 《西部病院》

部長：岡田智幸

主任医長：中村 学

医員：荒井光太郎、久保佑介

西部病院耳鼻咽喉科勉強会（釘持 睦先生主催）

岡田智幸

お盆休みの前に、後輩の諸君に伝えたいことがあるという釘持 睦先生（今年度神奈川県医師会功労賞受賞、11回生、柔道部）の熱いお言葉に、ただ事ではない雰囲気のもと、青葉台の「治作寿し」にて耳鳴の勉強会が2018年8月10日のお盆直前に開催されました。

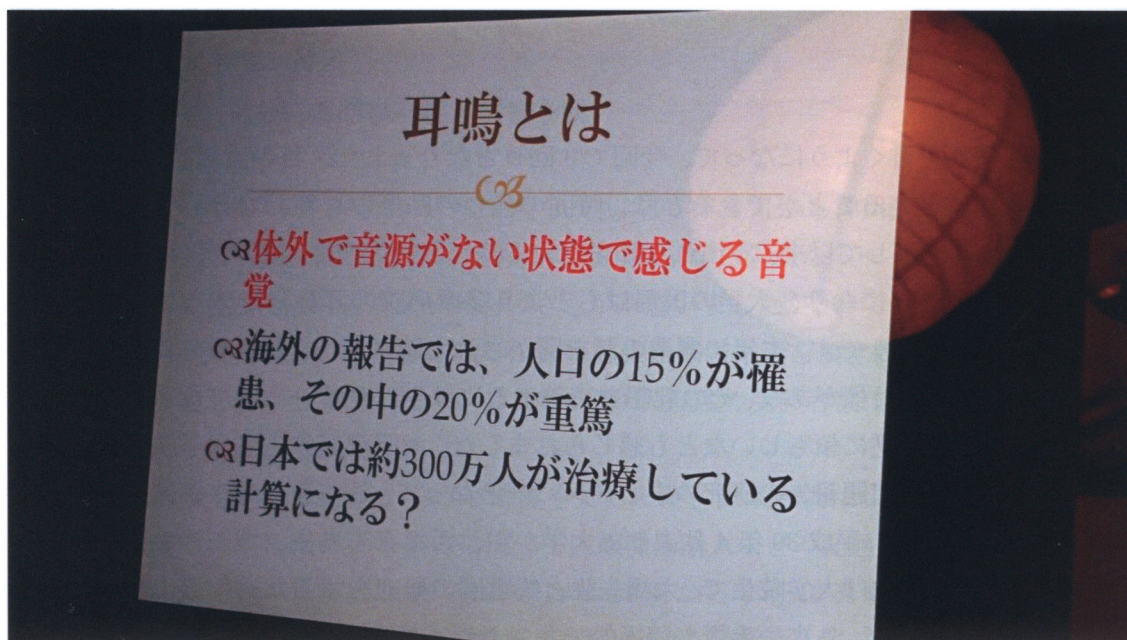
このお寿司屋さんは、岡田三兄弟（私岡田8回生、脳外科次男11回生、麻酔科三男16回生）が、たまたま西部病院に揃った3か月間、毎日のように行ったお店でしたが、最近、全くのご無沙汰でした（約20年前、先代の時のことです）。

本論に入りましょう。

勉強会が始まって、「耳鳴とは」の最初のスライド（図1）で、荒井先生が、Tough questionを釘持先生に、かましました。「聴力が正常でも耳鳴の人はいますよね?」、「老化すると頭で鳴っている人もいますよね?」、まさに的を得た質問で、脳のReconstructionの話や静寂音の表現の由来「シーン」を表現したのは、手塚治虫で、平安後期・鎌倉時代から「深」、「森」など音読みの「シン」が書物に記載されているなど、皆、博学で、盛り上がりました。当初、柔道部の伝統のように、「おまえら、分かっているね」。の雰囲気でしたが（今、これが通じていない後輩諸君がいるのは大変嘆かわしいですが、怖くもあり、かわいがっていただいている「証」でもあります）、荒井先生の質問が出たとたん、例によって（寿司屋に行っても、ビールしか飲まず、鮨を食べないのが釘持先生流）、ビールを一気に飲み、「いいねえ」の一言。皆でガンガン飲んで、凄いDiscussionになりました（ご想像の通りです。皆、何言ってるのかな?の世界です。図2）。

今回は、2019年1月17日木曜日に次回「蝸電図の今後の展望」の勉強会を予定しております。後輩諸君は、先輩たちの苦労話を是非聞いて欲しい。’Roma was not built in a day’（ローマは一日にして成らず）のように（これも通じない先輩方（高齢患者さん）も多いのが現状ですが）、大橋 徹先生は、世界で初めてヒトの蝸電図を行なったメンバー（筑波大学吉江教授一門）で、釘持先生は、愛弟子であります。私岡田は、Prof Charles Skinner Hallpike と Prof Margaret Dix の孫弟子です（恩師の Prof AM Bronstein は、来年富山の第78回日本めまい平衡医学会に来ますが、彼が愛弟子）。大切なのは’The Original’です。せつかく、我がマリアンナに所属して、派生ばかりの論文を気にしてはいけません。諸君は、’The Original’（正真正銘）の系統なのでから。今後も、勉強会を開催して行きます（釘持先生お願いします）、皆、是非参加してください

い!



関連病院だより 《川崎市立多摩病院》

部長：晝間 清

主任医長：井戸光次朗

医員：西本寛志、堀江怜央

関連病院便りを書くようになって、今回で3回目となりました。科の責任者となり、3年目をこのように迎えることができるのは、時間の経つのは早いものだなと感じるところです。多摩病院に赴任して以来、不慣れな私を支えてくれた阿久津征利先生が、4月に東京西馬込で開業することになり、大学の医局はもとより多摩病院の耳鼻科を去ることになったのは、さびしいかぎりです。去年に開業の話が聞かされた時には、まだ若いのに残念だなと思う反面、確固たる目標があり、その理想を実現するにはやはり若いうちでないとできないのかなとも思われ、逆に頼もしいなとも感じられました。大原章裕先生も大学院生として大学にもどり、来年の宿題報告の研究の中心メンバーとなって、こちらも将来が楽しみです。この2人に代わって、平成30年4月より、大学から、西本寛志先生、堀江怜央先生が来てくれました。西本先生は大学院生で、大橋先生と蝸電図の研究をするために週1回秦野日赤病院に行っていますが、外来や手術も積極的でとても頼もしい存在です。堀江先生は耳鼻科としては1年目ですが、日々、新しい経験をするたびに成長していくのを見るにつけ、部長として喜ばしく感じております。今年度も変わらずに残ってくれたのが、井戸光次朗先生で、声が大きく、いつも話がおもしろいので、科のムードメーカーです。一方で困った時にいつも適切な助言をしてくれる、私にとって大切な存在です。このような先生方に囲まれて、私の方はというと、病院の仕事としてボランティアサービス委員会とクリニカルパス委員会の委員長をしております。前者では身だしなみや接遇といった、いままでやや軽視？していた分野の担当となりましたが、看護師さんを含む多職種の方からの意見を聞くことが多く、大変、勉強になっております。多摩病院でのこのような活動が医療事故などの防止に役立っているのは言うまでもありません。

関連病院だより 《横浜医療センター》

部長：佐々木祐幸

医員：小野瀬好英

NHO 横浜医療センター耳鼻咽喉科便り（第9回）

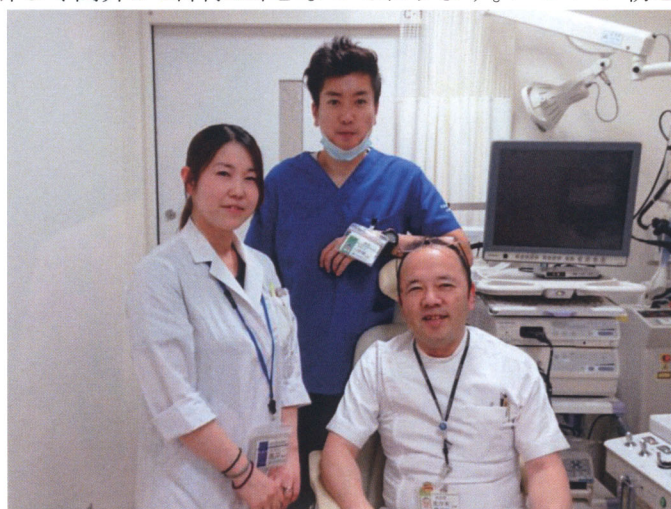
外来日は月～金の午前8時30分～11時30分。H30年4月から神川先生に引き続き小野瀬先生が活躍しております。寡黙に空を仰ぐ神川先生から陽気なトークの小野瀬先生へのバトンタッチに、当初は周辺スタッフもいささか戸惑いましたが、今ではすっかり意気投合しています。毎週金曜日の手術日は大学からの外来診察医派遣を頂き、4月から現在まで藤井先生に担当をお願いしております。1日平均30人程度の受診者数で、新患担当は月・水が佐々木、火・木が小野瀬です。

昨年度は病院全体の収支がかろうじて黒字でしたが、医業収支はリニューアル以来初めての赤字転落であったため、今年度に関して医療機器購入などの見通しは暗いです。

入院数は昨年度の平均が約3人で微増、昨年11月から今年10月までの入院手術件数は計140件、主な内訳はESSが37件、扁桃摘48件（24例）、デビ9件、チューブ挿入19件、LMS13件です。外来での小手術を追加して170件程度です。結果として日耳鼻専門医研修施設認可申請基準を満たし、現在申請中です。周辺の先生方のご支援の賜であり、大変感謝いたしております。

当地に出向してから9回目の冬を迎えておりますが、H22年度にリニューアルした当院の外観などはまだキレイです。つい先日、廊下のワックス剥離清掃とやらが入り、院内はまるでリニューアル当時のごとくの景色になりました。嚥下内視鏡（VE）件数は、週6～10件程度で推移しております。現状では外来患者へのVEは施行しておりません。

外来看護師は1名ですが、曜日によりCブロック（耳鼻科、眼科、皮膚科、泌尿器科）担当の3、4名のうち、1名が交代で診察介助を行っています。医療事務（MA）の樋口は大学通学のため惜しまれつつ退職し、新しく高井が当科担当となっております。パソコン初心者の元保母さんで、以前の樋口ほどのキレはございませんが、しばしの間はどうぞ温かい目でお見守り下さい。



関連病院だより 《横浜総合病院》

部長：田中泰彦

H30年4月から当院平元院長にも快諾頂き5年ぶりに2名常勤となりました。大学より医師4年目の山田善宥先生にいらっしゃって頂いております。同じく四門会員でいらっしゃいます山田善一先生のご子息です。連日頑張って診療に当たっておりのみ込みも早く手先も器用でとても助かっております。私の負担もかなり軽減しました。何より昼食が摂れるようになりました。昨年度までは私が不在の日には緊急入院が取れない場合もありましたが、近隣の先生方からの紹介にも迅速に対応出来るようになり患者さんも増えつつある状況です。当院主催の病診連携の会も近隣医師会との間で毎年開催されており（OBの先生方、ご出席頂き有難うございます!）、最近では都筑区の先生からもご紹介を頂くようになりました。また、青葉区の耳鼻咽喉科、昭和大藤ヶ丘・北部病院の先生方との懇親の場にもお呼び頂き、病診・病病連携に役立っております。入院・手術件数も増加傾向で、形成外科との合同手術（Open septorhinoplasty）も定期的に入るようになって参りました。もう少し症例が集まりましたら発表をしたいところです。昨年度は、手術用内視鏡セットを購入して頂きました。今後の普及を考え耳用の内視鏡を含むタワー一式です。これまで当科には自前のタワーがありませんでした。これにより他科に気兼ねなく手術が出来るようになりました。先日は脳動脈瘤のクリップ術でお声がけ頂き耳用の内視鏡を使用して頂きましたが、余りの画像の鮮明さに副院長（機器購入委員長）もビックリしておりました。昨年同様、大学の先生方には当科では加療しきれない患者さんを診て頂いております。また、月曜午後には肥塚先生、木曜日には医局員の先生方に外来診療をして頂いております。今年度もOBの先生方には手術をお手伝い頂いております。皆様有難うございます。今後とも宜しくお願い申し上げます。



関連病院だより 《東京労災病院》

医員：川島孝介

平素より四門会会員の諸先生方には大変お世話になっており、厚く御礼申し上げます。

2018年4月から東京労災病院で勤務させて頂いている川島孝介と申します。当院は大森・蒲田地区に属する400床を有する病院で、現在当科は部長の高柳博久先生と私の2人体制で診療を行っております。初めての市中病院勤務で慣れないことも多くありましたが、地域に根付いた臨床を日々学ばせて頂いております。また手術に関しては多くの症例でオペレーターをさせて頂き、日々スキルアップに精進しております。

〈手術〉

月曜日と金曜日が一日手術日となっており、扁桃・アデノイド切除、鼻副鼻腔手術、ラリngoマイクロサージェリー、頭頸部良性腫瘍を中心に行い、耳手術が予定された際には聖マリアンナ医科大学本院より谷口雄一郎先生を招聘し、手術を行っております。

〈外来業務〉

前述の手術日以外は、東邦大学や聖マリアンナ医科大学から外勤の先生方にもご協力頂き、2診体制で外来を行っております。午前中は一般外来を行い、午後は術前外来、鼻術後外来、嚥下外来、めまい外来を主に行っております。また毎週水曜午後に関しては、甲状腺等のエコー下ガイド生検、VE・VF検査を行っております。

〈入院加療〉

主な入院加療症例としては、急性炎症、めまい、突発性難聴、顔面神経麻痺などが多く、ご紹介頂く近隣の先生方には大変お世話になっております。

これからも同門会の諸先生方や医局の力となれるよう努力して参りますので、何卒ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

関連病院便り《がん研有明病院》

新橋 渉

ご無沙汰しております。平成 13 年卒の新橋でございます。

私は、卒後 3 年目に当時の癌研究会附属病院頭頸科部長の鎌田先生と肥塚教授がお知り合いでご紹介いただき研修医として勤務させていただくことになりました。癌研は明治 41 年に日本で初めての癌専門病院として創設されました。私が赴任した当時は大塚に病院があり、昭和 38 年に建設された建物で老朽化が顕著であり、夜に仕事をしていると天井裏をネズミが動く音が聞こえ、外来に食べ物を置き忘れると翌日にはネズミが食べ散らかすというような感じで衝撃的でした。最初の数年はわからないことだらけで、なんとか毎日皆についていくという感じでした。術前術後のカンファレンスは激しく、我々レジデントがプレゼンした症例について、半分けんか？とも思える議論がなされていました。2005 年に現在の有明に移転し病院名もがん研有明病院となりました。

手術について：毎週火曜と木曜が主な手術日で、火曜木曜それぞれ再建手術 2 件、小一中時間手術は 4-5 件が入ります。それに加え水曜、金曜は甲状腺手術やリンパ節生検など短時間手術が入る感じです。当科の特徴は、切除と皮弁採取、再建、マイクロとすべて自分達で行う点です。これには、長所も短所も存在します。退院直後は食事がとれていても、数年すると飲めなくなってしまう患者さんもおり、そのような経験を生かした再建をできることが長所の一つです。短所は、新しい手術手技を導入するのに時間を要することです。現在では舌癌の再建手術で前腕皮弁を用いることはまれです。舌半切程度であれば、ほとんどが前外側大腿皮弁（ALT）を使用しますが、ALT は穿通枝皮弁であり採取にやや技術を要するため、形成外科で一般的になってから当科でも導入する形になり、数年遅れる形となります。

最後に、この場をお借りして、がん研をご紹介いただいた肥塚教授をはじめ、腫瘍班の先生方、他の医局員や関連病院の先生方、同期の先生方に心から感謝申し上げます。皆様のおかげで自分が長期にわたりがん研で勤務させていただき、今の自分があることはいつも意識しています。本当にありがとうございます。がん研は頭頸科だけでなく他の科も、東大はじめ日本全国から医師が来ます。いつも自分は、聖マリアンナ医科大学の名を汚さぬよう、誇りを持って日々過ごすよう心がけています。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



OB 通信 平成 30 年夏

大越 俊和

夏休みイタリアを旅してきた。妻とイタリアに行くのは 40 年ぶりである。ツアー旅行だから楽なものだったが、暑さはやはりつらかった。ミラノ直行便だから楽と思っていたのに、アリタリアだから何かあるかと想っていたが出発が 10 時間も遅れて、夜の 6 時半に着くはずが翌朝 4 時になったのは予想外でいささか疲れた。ミラノでレオナルドダビンチの最後の晩餐を観ることが出来た！我々ツアー客とガイドのたった 8 人で 15 分間も鑑賞出来たのは至福の喜びでもあった。ミケランジェロの最晩年の作で、他の像が残っているピエタ、バチカンにある美しいピエタ、予定になかったが、一緒のツアーの人がまちがえて多く予約してしまったという理由で、フィレンツェでアカデミア美術館に入れ、レプリカでない本物のダビデも観ることが出来た。幸運にも波がなくて青の洞窟に入れ、あの青を体感出来たのは違える喜びであった。ついでにピザは、ナポリで食べた単純なマルゲリータが一番美味であった。

帰国して次は、大曲の花火ここ数年娘と一緒に訪づれている、角館を通ることになるが大高君はがんばっているのかなといつも思う。今年はいつもの栈敷でなく椅子席であったのでずいぶん楽だった。花火は見事としか言いようがなく、見た事がない方には是非にとお勧めします。花火の咲いているはかなさと、音に、生者と死者との交流みたいなものがある様に思ってしまうのは、年齢のせいかなと思ってしまう。来世はすぐ近くに存在する気もする。

夏が終わった今年はこれからする事がある。もうすぐ 70 歳になる。だいぶ遅れて医者になったので、あまり働いていない気もするが、一度この辺で区切りをつけ様と思うことにした。父を継いで開業したのでその大変さを知らないが、やめると決心するのは大変むずかしい決断であった。本年 12 月末をもって閉る予定である。同門の皆様にはこの稿を借りて報告とさせていただきます。



OB 通信

越智 健太郎

2006年に相模原で開業し13年目になります。毎週木曜日は、鈿持先生の実験の話相手をしてしながら、5年生の聴力検査実習をし、タイミングが合えば実験を紹介しています。

3人息子がいますが、2017年から全員別居しています。2018年正月は次男が Vancouver に留学していたこともあり、家族4人（現地5人）で Vancouver-Whistler に行ってきました。

古くなりますが、1993年から Calgary に2年間留学していたため、留学中は数回行っていましたが、帰国後は2001年に International ERA (Evoked Response Audiometry) Seminar で Vancouver に行って以来で、17年ぶりでした。

帰国後スキーはしていなかったため不安はあったのですが、Whistler Village に行きたいという気持ちがあり、Whistler にも行くことにしました。

スキー場は、広くてよかったのですが、雪質が悪く、近年カナダ人等が JAPOW (Japan powder snow) を求め日本に来る理由が分かった気がしました。

Whistler は好景気なようで、リフト券が14000円で、Hotel もゴンドラステーションから遠かったにもかかわらずツインで50000円くらいしました。Vancouver は Whistler ほど宿泊費は高くありませんでしたが、町を歩く人々はスリムな人ばかりで、以前見かけたとても大きな白人は1人も見かけず、一番見かける車がポルシェ・カイエンで、古い車はほとんど見かけませんでした。食事は Internet 予約していきましたが、評価の良かったお店にしか行かなかったためかもしれませんが、とても洗練されていて、以前とは全く違いました。今回 Vancouver-Whistler の大きな変化をみて、時の流れを実感しました。Whistler にはいいゴルフ場があり、夏の気候もすばらしく、Village ももうしぶんないのですが、宿泊費の高騰が残念です。

PS: 開業して初めて、論文を投稿中しました。実験系の初論文ということもあり、かなり苦労しています。動物実験で international に出すのはかなり大変ということを感じています。



OB 通信 鉄道模型作り

佐久間 惇

小学校に上がる前の話。日曜日になると父親の自転車に乗って駅に向かいます。駅の売店で競馬新聞を買うためです。通り過ぎる電車を線路際からいつまでも眺めている子供でしたので、自然に電車に興味を持ち始めました。小学校に上がった時、秋葉原デパートで叔父叔母から貨車の模型を買ってもらったのが道楽のスタート。当時近所に模型屋があって、ショーウインドーに飾ってある模型がほしくても、350 円の貨車の模型は小学生にとっては高値の花で手が出ません。小学校 5 年生のころ、区立新宿図書館に行ったときに一冊の雑誌が目にとまりました。「鉄道模型趣味」と書かれた雑誌の表紙には、地元営団地下鉄 6000 系。さっそく借りて家で目を通すと、模型の製作記事が書いてありました。鉄道模型はこのように自作することができるんだと驚き、いつかは自分の手でと思うようになりました。はじめはボール紙に線を引いて、ナイフで切り抜き、糊で張り付け、学校で使う水彩絵の具で色を付け完成？あれ屋根もないし台車もないよ。次に近所の模型屋で伊豆急 110 系のペーパーキットを買ってきて無謀にもチャレンジ。プレスで型抜きした固い紙を張り合わせ車体を作り、木の板でできた屋根板と床板を貼り付け、プラカラーで色付けといった工程を経て出来上がり。小学生が作ったものなので夏休みの工作レベルのものだが、自画自賛で結構これで遊んでいました。

中学生 1 年の年末、近所の書店の書棚で「鉄道模型趣味 1974 年新年号」見つけた時は歓喜。あまりに繰り返し読んでいたので、最後は表紙がとれてしまいました。「鉄道模型趣味」は当時唯一の鉄道模型専門雑誌で、模型作りの基本的テクニックはこれを見て覚えました。中学、高校はコツコツと自己満足で作っていましたが、大学に入ると同級生に同じ趣味の友人がいることがわかり、今でも年一で模型の運転会を行っています。

次にどのように模型を作るのかをご紹介します。すべて自分で作るのは大変ですので、出来合いのキットを利用します。写真 1・2 は紙の例。紙に切り取り線が印刷してあり、これに沿ってカッターナイフで切り抜きます。あとは接着剤を使って組み立て色を塗って完成。写真 3 から 5 は真鍮製のキットです。真鍮板をはんだで組立てて塗装をすれば出来上がり。

学生のころ母親から、「いつになったらやめるの」と言われましたがやめるつもりはありません。スタートから 45 年以上がたちましたが、一生ものの趣味なのでまだまだ頑張ります。

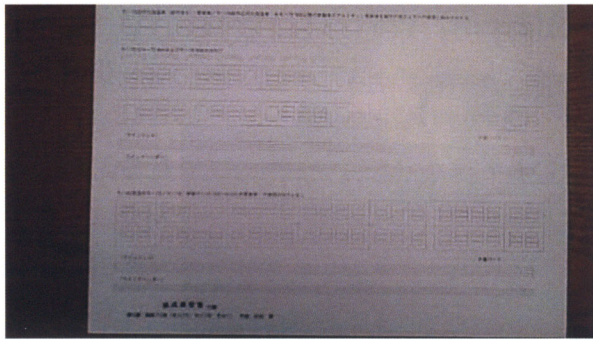


写真1

ペーパーキットの例。紙に切り取り線を描いただけなので自分で切り抜く必要があります。

写真2

切って、貼って、塗ってしまえば、紙でできているとは思えません。

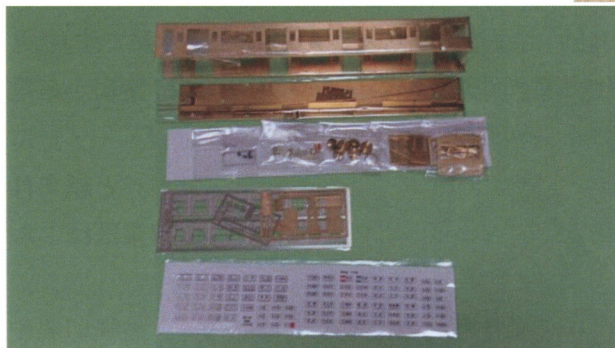
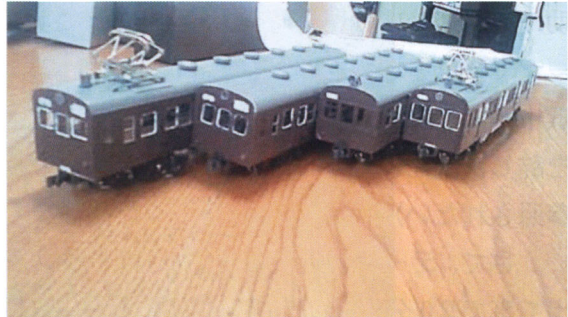


写真3

これは真鍮製キット。真鍮板をプレスしたものの。でもこれは出来上がってもボディーだけ。

写真4

製作途中ではこのようになります。台車や連結器などは自分で用意しなければなりません。



写真5

昔の国電勢ぞろい総勢24両。一番左のウグイス色の電車は既製品ですが、スカイブルー、オレンジバーミリオン、カナリア色の三本は自分でキットを組み立てたもの。かなりいい加減な出来ですが、走らせれば細かいところはわからないと自分に言い聞かせています。現在は残りのエメラルドグリーンの電車を作成中です。

OB 通信

荻野貞雄

四門会総会で見かける現役医局員は、知らない若者ばかり。この四門会誌を見る先生たちの多くは、小生が開業した後入局しているわけで、当然である。そこで、自己紹介。聖マリアンナ医大の10回生、サッカー部。昭和61年、栄えある聖マリアンナ医大耳鼻咽喉科医局に入局し、竹山教授門下生となった。諸先輩方に10年有余育てていただき、後輩たちに助けられ楽しい勤務医時代を過ごした。この間に加藤教授の指導のもと、OKNに関するテーマで学位をいただいた。医局在籍中は、本院では一般外来の他、めまい外来を担当し、横浜市西部病院、島田総合病院、横浜総合病院、登戸病院などに勤務した。平成12年に医局を辞し、現在いる熊谷医院で仕事を始めた。(当時のことについては、四門会誌第9号を参照されたい)

さて、テーマの近況報告である。開業してから変わらない日常が続いている。朝、家を出て車で20分少々、診療所に到着。コーヒーを煎れ、外来開始までまったりと過ごす。が、なかなかゆっくりできない。「〇〇ちゃんが吐いてます」、「△△さんが39度の熱です」、と看護婦さんから声がかかる。日常診療も多忙で、泣き叫ぶ子の鼻汁を吸いながら、薬局から電話「●●くんのメイアクトDSの分量が・・・」や「▲▲ちゃんはシロップ希望・・・」に答え、暴れる子の耳垢除去を終えると、「レントゲンのスイッチをお願いします」と頼まれる。カルテに所見を書き、処方箋を発行、患者さんにムンテラ……。市井の開業医はこんなもんである。

一方、変わったことはいくつかある。まず、老眼で細かい作業が困難となり、鼓膜切開やチュービングはやらなくなった。次に、めまい検査は赤外線フレンチェルにより診断精度が上がった。iPad上の眼振を、患者さんと一緒に見てムンテラできる。あと一つ、額帯鏡をヘッドライトに変えた。光が目が悪いし、左眼のブドウ膜炎(原因不明)を患ったことと重なり変更した。さらには、朝聞く音楽にクラシック、ジャズが加わった。これは、TVの‘のだめカンタービレ’の影響大である。おかげで、今まで付き合いでイヤイヤ行っていたコンサートも苦痛がなくなった。変わってほしいのは、ゴルフのHC。予定では、今頃はもうとっくにシングルになっているはず。練習場に通っては開眼し雑誌を読んでは開眼、「今年こそは!」、と毎年誓うのである。

ここ数年、我が医局への希望者も増えていると聞く。まことに喜ばしいことで、現医局員の努力とやる気を評価したい。ますますの医局の発展を願うばかりで、少しでもその助けになるならば一肌脱ぐには抵抗ない。是非、声をかけていただきたい。



OB 通信 私の父のこと

鋦持 睦

こんにちは、聖マリアンナ医科大学 11 回生の鋦持です。今日は私にとって偉大な父について思い出すまま話をします。父は 2 年前に他界しました。享年 89 歳でした。

父は神奈川県小田原市の農家に生まれ、独学で国立大の医学部に入学。卒業後、茨城県の霞ヶ浦と利根川周辺の水郷地帯にある病院へ大学から出向し、その病院の近隣で外科医として 50 年以上開業しておりました。

その地で私は男 4 人兄弟の 3 番目に生まれました。その時代のお父さんは皆そんな風だったのかわかりませんが、私の父は笑うことなどなくとても怖く厳しかったので、話す時は敬語で、顔が見えるときは常に緊張しておりました。

父は午前午後の外来と、夜は 20 時から 2 時間の診療をして、若い頃は手術もしていました。休みは正月と祭日だけでした。日曜も仕事だったので病院と自宅を慌ただしく行き来し、ほとんど家にいなかった父と接点はなく、ゆっくり話をした記憶はありません。三男坊の私は多忙な親から目が届かない存在で、毎日田んぼの中を走り回ってのんびりと育ちました。大学入学後は寮へ入り実家を離れたので親に会う回数は少なくなりました。私が耳鼻咽喉科の研修医になった頃、母の病気がわかり残念ながら 57 歳で亡くなりました。

父はその後しばらく弟と暮らしていましたが、弟も大学で実家を離れたので独りになってしまいました。父は頑固で気難しいところがあり母亡き後、家政婦さんを頼んだこともありましたが満足せず、ことごとくクビにしていきました。

私はなるべく週末に帰省するようにはしていましたが顔は見せるもののテレビ越しに会話らしい会話もなく、その後結婚して長男が生まれカナダ留学が決まるなど忙しくなったこともあり、実家に行くことは年に一度となってしまいました。

そのころ父に良縁があり、二回り若い女性が父のところに来てくださいました。新しい母です。この人が本当に良い人で父を 25 年の間、大事にして支えてくれました。この母のお陰で父は 90 歳近くまで仕事を続け、長生きが出来たのだと思います。また私たちも母を通じて父のことをより知ることが出来ました。

父は食べ物の好き嫌いが激しく、よく母を困らせておりました。濃い味付けが好きで、正月には家庭科の先生だった母が用意した美味しい酢ダコを前に「まだ酢が足らん」と言ってさらに酢をバシャバシャかけて食べていました。

実家近くの料理屋で食事した際には父のために店主が特別に天然うなぎを用意してくれたのに「うなぎはきらいだ」と言って箸をつけず、店主が挨拶にきて「先生は何がお好きなんですか」と聞かれた時には「食べ物などかむのが面倒だから、全部きらい」と言ってしまい、一同を唾然とさせました。

かむのが面倒と言っておきながら歯が折れるくらい堅いお煎餅が大好物でバリバリとおいしそうに食べていました。私も勧められて試しに食べてみたのですが石かと思うほど堅

くあごが痺れて疲れました。

慎重な性格で旅先にあったマッサージチェアが快適だったので勧めると「やったことがない」と言って決して座りませんでした。

私は自分が父親になり父の気持ちが何となく理解できてきたのと、休みなく働き 4 人の息子を一人前にする責任を自分に置き換えてみて初めて父の偉大さを感じました。

母への感謝の気持ちもあり高齢の父との時間を少しでも持ちたいと 2008 年の夏に初めて私の家族と父母で温泉に出かけました。それ以降、兄弟家族集合で年に 2 回の旅行会を開催することとなりました。

こちらの写真は、父が母に「最後に海外へ行くならハワイだな」と言っていたので、弟家族と私の家族、父母でハワイへ旅行した時の一枚です。

女性陣がショッピングモールで買い物をしている 40 分ほどの時間でしたが父とベンチに並んで座って話をしました。ロボット手術のこと等他愛のない話だったのですがこんなに長い時間話をしたのはたぶん初めてでした。父と対等な大人になったのかなあと不思議な気分がしたのを覚えています。

父が 75 歳を過ぎたころ恐る恐る補聴器を贈りましたが拍子抜けするほどすんなりと受け入れて使いこなし、晩年には、嫌がるかなと思われた車椅子に楽しげに乗ってくれ意外に思ったこともありました。

体調を崩し仕事を長男の兄に任せ、時間が出来た時には孫娘と立体パズルをして綿密に記録をつけ、小学生相手に本気の負けず嫌いモード全開で競争していました。

私が自院開業を決め、報告した際に一言「医者には医者だけやっていけばいいんだ」と言われました。わき目も振らずにやるべき仕事に集中しろという父の信条だったのでしょうか。そんな父は 2015 年を全うし年が明けた元旦の深夜に静かに永眠しました。

いなくなっても私の中で父の存在感は弱まることはなく実家の居間に座っていて「お、帰ってきたか」と言ってくれるような気がします。

知識が豊富で頭の回転が速く判断力があり、真面目で少し照れ屋な父でした。なるべく父に近づけるよう父親として、医師としてこれからも頑張るつもりです。

来季は優勝の監督胴上げで泣いてみたいものです。



OB 通信 【飛行機修行のすゝめ】

黒田 寿史

私は5年前から飛行機の修行というものをしています。

飛行機の修行???

簡単にいうと航空会社の上級会員ステイタスを得るために飛行機にたくさん乗ることを修行といえます。

そして、修行をする人のことは修行僧（または修行尼）と呼ばれます（笑）

なぜ修行をするのか？

もちろん上級会員ステイタスを得ることによるメリットがあるからです。

航空会社により多少の違いはありますが、下記のようなメリットを受けることができます。

専用のサービスデスク利用

ラウンジの利用（カードラウンジとは別の、航空会社毎のラウンジが利用できます）

座席のアップグレード

予約の先行受付

空席待ちの優先予約

優先チェックインカウンターの利用

手荷物受取の優先

手荷物許容量の優待

専用保安検査場の利用

優先搭乗

ボーナスマイル

などなど…

予約にはじまり、空港や飛行機内での滞在、降機後にいたるまで、かなり快適になります。

それでは、どういう人が上級会員ステイタスを得ているのか？

多くの航空会社は毎年1月1日から12月31日までの搭乗実績により顧客にステイタスを付与しています。

たとえば日本航空では搭乗実績ポイントであるFOP（FLY ON ポイント）により、

ダイヤモンド：100000FOP以上

プレミア：80000FOP以上、100000FOP未満

サファイア：50000FOP以上、80000FOP未満



クリスタル : 30000FOP以上、50000FOP未満

という4種類のステイタスに分類されます。

全日空でも似たような感じでダイヤモンド、プラチナ、ブロンズという3種類のステイタスがあります。

仕事で毎週のように飛行機に乗っていたり、年に何度も海外旅行へ行く人は自然に上級会員ステイタスになるようにできているのですが（もともとそういう人を対象としたサービスです）、自分のように年に何度か学会や旅行で国内線に乗る程度では最低のステイタスであるクリスタルにも遠く届きません。

でも、上級会員ステイタスのサービスを知ってしまうとどうしても欲しくなってしまうものです。

いろいろと調べた結果、修行という手段で上級会員ステイタスを得るという結論になりました。

1年間とにかく飛行機にたくさん乗ってFOPを50000ポイント以上獲得し、サファイアのステイタスになるとJGC（JAL Global Club）という会員組織に入会することができます。

JGCに入会するとサファイアステイタスとほぼ同じメリットをクレジットカードの年会費を支払い続ける限り受けられるのです。

日本航空（赤組といいます、ちなみに全日空は青組といいます）で修行をしている修行僧や修行尼はJGC会員になることをひとつの目標としており、目標を達成して修行を終えることを『解脱した』といいます。

自分が修行をした1年間は沖縄へ毎月2回以上、時には1日で沖縄2往復！？、2泊3日で沖縄2往復&シンガポール往復したりしました。

仕事と家庭に支障をきたさないよう修行をすることは想像以上に大変で、それだけに解脱した時の喜びはこのうえないものでした。

また、マリアンナ16回生で卒後に日本航空のパイロットになった篠崎恵二先生が機長の飛行機に乗ることができたこともよい思い出です。

日本航空の修行を解脱すると全日空の修行もしたくなり、両方を解脱するとさらに上級のステイタスがほしくなり…

結局、毎年たくさん飛行機に乗るようになってしまいました。

第 19 回 四門会ゴルフコンペ

桑原 大輔

昨年と同様に、葉山国際カンツリー倶楽部ダイヤモンドコースでの開催となりました。この夏の猛暑や台風で、開催できるか、故障者が出ないかなど心配されましたが、無事に開催することができました。当日は雨模様かすかに雷の音も聞こえる中スタートとなりましたが、進んでいくうちに天気は回復傾向にあり、午後からは雨も降り止み、信じられないくらいの涼しい中でGOLFができました。雨の中全 4 組 14 人がスタートしました。今回は現役医局員は宮本先生のみでの参加でした。

今回は現役医局員の皆さんも多数ご参加いただき、OB との交流の場のひとつとして、この会を盛り上げていただけたらと思います。

結果ですが、今回は涼しくコンディションも良かったことも幸いし上位は実力伯仲の

すばらしい戦いとなり 9 位までが NET スコア 70 台、そして 2 位から 4 位までが同 NET で並ぶという大接戦の中わずかに 1 打差で優勝は岩武博也先生でした。

私個人的には、打倒岩武先生を目指しておりましたが、第 1 組目でスタートした岩武先生が 1 ホール目 2 ホール目と連続バーディーとすばらしいスコアだったため、こちらは力が入ってしまい、結果最後まで追いつくことができませんでした。

今回は平成 31 年 9 月 29 日（日）に第 20 回 四門会ゴルフコンペを開催予定です。多数の先生方のご参加をお待ちしております。

次回幹事は 岩武先生 信清先生 内田先生です。

第 19 回四門会ゴルフコンペ

| 順位 | 競技者名 | GROSS | HDCP | NET |
|------|--------|-------|------|------|
| 優勝 | 岩武 博也 | 78 | 9.0 | 69.0 |
| 準優勝 | 桑原 大輔 | 80 | 10.0 | 70.0 |
| 3 位 | 荻野 貞雄 | 81 | 11.0 | 70.0 |
| 4 位 | 赤尾 一郎 | 83 | 13.0 | 70.0 |
| 5 位 | 宮部 聡 | 88 | 15.0 | 73.0 |
| 6 位 | 菅野 澄雄 | 89 | 16.0 | 73.0 |
| 7 位 | 鳥越 達也 | 99 | 24.0 | 75.0 |
| 8 位 | 田澤 卓 | 102 | 26.0 | 76.0 |
| 9 位 | 越智 健太郎 | 87 | 8.0 | 79.0 |
| 10 位 | 信清 重典 | 101 | 20.0 | 81.0 |
| 11 位 | 佐久間 惇 | 110 | 28.0 | 82.0 |
| 12 位 | 大塚 崇志 | 124 | 42.0 | 82.0 |
| 13 位 | 宮本 康裕 | 131 | 41.0 | 90.0 |
| 14 位 | 内田 登 | 109 | 13.0 | 96.0 |



表彰式での集合写真
朝イチのショット！（敬称略）



大塚



宮部



岩武



越智



荻野



佐久間



鳥越



菅野



信清



内田



田澤



宮本



桑原



赤尾

第 22 回四門会総会議事録

1. 会員数内訳（平成 30 年 12 月 1 日現在）
総会員数：141 名
うち現医局員：33 名
2. 会員異動
阿久津 征利 平成 30 年 3 月 31 日 退職
(西馬込あくつ耳鼻咽喉科)
3. 新入会員
あかば くにあき 赤羽 邦明 平成 30 年 4 月 1 日 入職
くぼ ゆうすけ 久保 佑介 平成 30 年 4 月 1 日 入職
ふじい まさあみ 藤井 正文 平成 30 年 4 月 1 日 入職
ほりえ れいお 堀江 怜央 平成 30 年 4 月 1 日 入職
もりた しょう 森田 翔 平成 30 年 4 月 1 日 入職
4. 退会会員 田畑 久美子 平成 30 年 3 月 31 日
5. 会計報告（平成 29 年 10 月～平成 30 年 9 月）
次ページ参照
6. 平成 30 年度役員人事
会 長 岩武博也
副会長 渡来潤次、服部康介
顧 問 竹山 勇、加藤 功、大橋 徹
推薦理事 肥塚 泉
理 事 赤澤吉弘、上杉恵介、越智健太郎、
春日井 滋、勝見直樹、木下裕継、
黒田寿史、倉田久美、釧持 睦、
小松崎 靖、佐久間 惇、
佐々木祐幸、佐藤成樹、新谷敏晴、
スミス馨子、田中泰彦、晝間 清、
南 定、宮部 聡、宮本康裕、
谷口雄一郎、渡辺昭司 (50 音順)
監 事 芋川英紀、岡田智幸
事務局長 三上公志
7. 平成 30 年度四門会賞
釧持 睦
8. 第 80 回耳鼻咽喉科臨床学会について報告
・肥塚推薦理事から演題数 322 題、参加者 1000 名超であったこと、四門会 OB の寄付は 10,800,000 円であったことが報告された。
9. 第 120 回日本耳鼻咽喉科学会総会（2019 年）宿題報告への寄付について
・同門会として 150 万円寄付することが承認された。
10. 同門会より 2019 年度も新入医局員勧誘費として 30 万円寄付することが承認された。
11. 次期会長（2019 年 4 月～）に服部康介理事が立候補し、承認された。副会長として佐久間 惇理事、黒田寿史理事、監事として芋川英紀先生、岡田智幸先生が推薦され、承認された。
12. 2019 年度四門会日時
日時：2019 年 12 月 1 日（日曜日）
場所：京王プラザホテル
13. その他

・2019 年度から中村 学先生が新しい理事として岩武博也会長より推薦され承認された。

平成29年10月～平成30年9月

| | 収入 | 支出 |
|------------------|-------------|------------|
| 平成28年度繰越金 | ¥4,274,132 | |
| 平成29年度年会費 | ¥1,435,000 | |
| 四門会誌第24号印刷費 | | ¥187,571 |
| 29年度総会 参加費 | ¥114,000 | |
| 総会 飛鳥飲食費 | | ¥195,210 |
| 総会 飲物代 | | ¥1,770 |
| 総会 秋山・山田日当 | | ¥20,000 |
| 通信運搬費 | | ¥34,360 |
| 慶弔費 | | ¥35,370 |
| 勧誘費 | | ¥300,000 |
| 四門会賞(5名分) | | ¥250,000 |
| 講演(北里大学 山下教授謝礼金) | | ¥120,000 |
| 第80回耳鼻咽喉科臨床学会寄付 | | ¥1,000,000 |
| 利息 | ¥32 | |
| | ¥5,823,164 | ¥2,144,281 |
| 次年度への繰越金 | ¥ 3,678,883 | |

監査報告

平成30年9月30日

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室
同門会(四門会)
会長 岩武 博也 殿

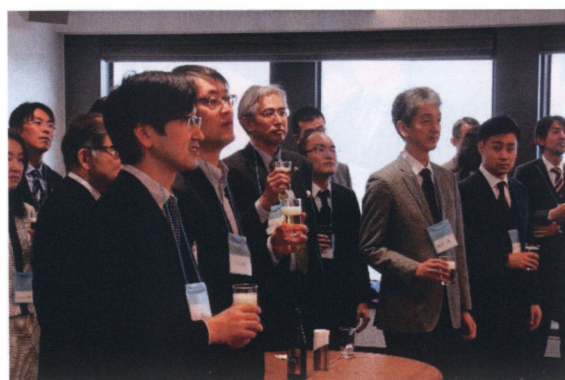
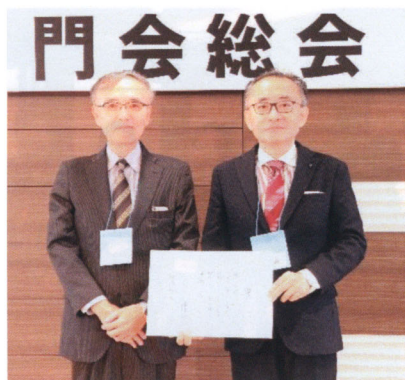
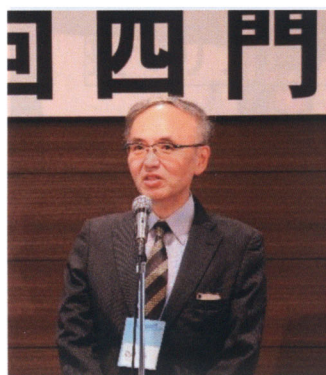
寺川 英紀 印

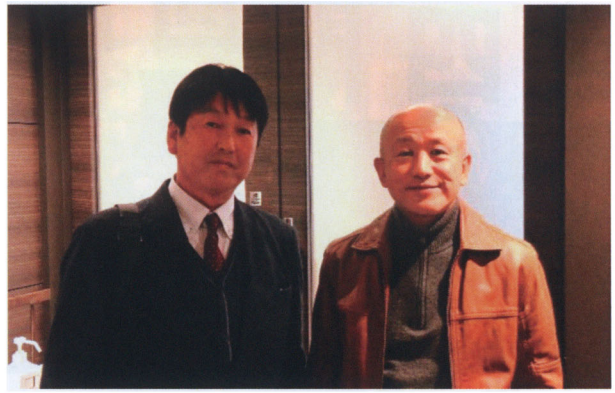
監事

岡田 邦幸 印

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室 同門会(四門会)平成29年度収支決算に関する
証拠書類を慎重に審査しましたところ適正であることを認めます。
また、会務は適切に施行されていることを認めます。







聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会会則

第1章 総 則

第1条 (名 称)

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会（四門会）と称する。

第2条 (事務局)

本会は、事務局を聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室内に置く。

第2章 目的および事業

第3条 (目 的)

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の進歩発展と学術事業に対する援助を行うとともに、会員相互の学術研鑽並びに親睦を図ることを目的とする。

第4条 (事 業)

本会は、前条の目的を達するために、次の事業を行う。

- (1) 学術研究会および講演会等の開催
- (2) 総会および親睦会の開催
- (3) 四門会誌・名簿・その他出版物の発行
- (4) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の後援
- (5) その他、本会の目的を達成するのに必要な事項

第3章 会 員

第5条 (会員)

本会は、次の者をもって会員とする。

- (1) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室在籍者
- (2) 聖マリアンナ医科大学関連教育病院耳鼻咽喉科在籍者
- (3) 本会の目的に賛同し会長あるいは理事会において承認された者

第6条 (会員の入退会手続)

- (1) 本会に入会を希望するものは、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、理事会の承認を得なければならない。
- (2) 前条(3)項に該当する者は、会長あるいは理事会の推薦を得た後、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、総会で承認を得なければならない。
- (3) 本会の退会を希望する者は理事会の承認を得なければならない。

第7条 (会 費)

- (1) 会費は細則に定めるところにする。
- (2) 会費は前納とする。

第4章 役員

第8条（役員）

本会は会長1名、副会長2名、理事数名、事務局長1名、監事2名を置く。

第9条（役員の任期）

- (1) 本会の役員の任期は、原則としてその都度議を得るものとする。ただし、再任を妨げない。
- (2) 役員に欠員が生じた場合、補欠役員がその職務を行う。
補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。
- (3) 役員は、その任期満了後でも後任者が就任するまでは、その職務を行う。

第10条（役員の職務、権限）

- (1) 会長は本会の代表し、会務を総括する。
- (2) 副会長は会長に支障が生じた場合、その職務を代行する。
- (3) 理事は理事会を構成し、会則に定めるものの他、本会の業務を議決し、業務を執行する。
- (4) 監事は本会の業務ならびに会計を監査する。
- (5) 事務局長は理事会のもとに事務局を統括し、会務の遂行にあたる。

第11条（役員を選任）

- (1) 理事および監事は会員により推薦され、理事会の議を得て、総会にて承認得たものとする。
選出の方法は細則による。
- (2) 理事の中に推薦理事と顧問を置き、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室代表教授を推薦理事とする。また、教授退任後は顧問とする。
- (3) 会長、副会長は理事の互選とする。
監事は理事および事務局長を兼ねることはできない。

第5章 会議

第12条（総会）

- (1) 総会は年1回会長が理事会の議を経て、これを召集する。
- (2) 総会は会員の3分の1以上の出席（委任状を含む）をもって成立する。
- (3) 総会において会長は議長とし、事業計画ならびに収支予算についての事項、事業報告および収支決算についての事項および本会の運営に関する重要事項の承認を受けなければならない。
- (4) 総会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。
- (5) 会長が必要と認めた場合、あるいは会員の要望がある場合において、会長は理事会の議を経て、臨時総会を召集することができる。

第13条（理事会）

- (1) 理事会は会長がこれを召集する。
- (2) 理事会は現理事数の3分の2以上の出席（委任状を含む）をもって成立する。
- (3) 理事会において会長は議長となり、本会の事業を企画し、必要な一切の事項を審議し運営する。

- (4) 理事会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。
- (5) 監事は理事会に出席し意見を述べることはできる。ただし、票決に加わることはできない。

第6章 事務局

第14条 (事務局)

- (1) 本会の一般業務を処理するために、本会の事務局内に事務局を置く。
- (2) 事務局の構成は事務局長1名、事務局員若干名とし、選出方法は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室医局に一任する。
- (3) 事務局長は理事会に出席する。

第7章 会計

第15条 (本会の経費)

本会の経費は会費、寄付金、その他の収入をもってあてる。

第16条 (会計年度)

本会の会計年度は毎年10月1日に始まり翌年9月30日に終える。

第8章 会則の改正

第17条 (会則の改正)

本会則を改正するには理事会の審議を経て、総会の出席者の3分の2以上の議決を得なければ変更することができない。

第9章 その他

第18条 (その他)

本会則を施行するに必要な細則を別に定める。

<附則>

第19条 (本会則の発効)

本会則は平成9年12月1日から発効する。

本会則は平成12年12月3日から発効する。

本会則は平成16年11月28日から発効する。

本会則は平成18年12月3日から発効する。

本会則は平成24年12月2日から発効する。

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会細則

第1条 本細則は会則第18条によりこれを定める。

第2条 (会費)

- (1) 会費は年会費とし、次のごとく定める。
- ・ 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室および同関連教育病院現医局員の会員は年額 5,000 円
 - ・ その他の会員は年額 10,000 円
- (2) 70 歳以上の会員に対しては理事会の議を経て、会費及び同門会参加費の免除を行い、名誉会員とする。

第 3 条 (役員を選出)

- (1) 役員の定数は、理事 15 名以上、監事 2 名とする
- (2) 選出方法は理事会に一任する。
- (3) 会長および副会長の選任は理事の互選による。
- (4) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室代表教授は会長を兼任できない。
- (5) 会長は聖マリアンナ医科大学卒業生に限る。
- (6) 会長、副会長の任期は 3 年 2 期までとする、ただし再任は防げない。
- (7) 役員は 65 歳で定年とする。

第 4 条 (慶弔)

会員にかかる慶弔は理事会に一任する。

<附則>

第 5 条 (本細則の発効)

- 本細則は平成 9 年 12 月 1 日から発効する。
- 本細則は平成 11 年 11 月 28 日から発効する。
- 本細則は平成 12 年 12 月 3 日から発効する。
- 本細則は平成 16 年 11 月 28 日から発効する。
- 本細則は平成 17 年 12 月 4 日から発効する。
- 本細則は平成 22 年 12 月 5 日から発効する。
- 本細則は平成 27 年 11 月 29 日から発効する。

《編集後記》

今回の表紙は今年の 5 月に取り壊しの予定である明石会館といたしました。聖マリアンナ医科大学キャンパスリニューアルが本格的になりはじめたと感じます。新病院にむけ器械の申請なども必要になってきます。そして、いうまでもなく人材も必要です。入局された医師が素晴らしい人材になるよう、引き続き努力してまいります。四門会の先生方には益々のご協力およびご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

皆様の健康と益々のご発展を祈念しております。 (三上公志)

